

基本計画 重点プログラム 市民アンケート報告書

平成 28 年（2016 年）9 月

横 須 賀 市

はじめに

横須賀市では、平成 10 年に策定した横須賀市総合計画に基づき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。

平成 23 年 4 月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画がスタートしています。

この基本計画では、計画期間中に、特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的とした「重点プログラム」を位置付けています。

今回、重点プログラムの目的、各プログラムの取り組みの方向性に対する市民の皆さまの実感を伺うアンケート調査を実施しました。(15 歳以上の 2,000 人の方が対象) 本調査は、平成 23 年度から継続して実施しているものです。

調査で得られた結果は、重点政策・施策評価や政策展開を検討する上での基礎資料として、十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには、厚くお礼申し上げます。

平成 28 年（2016 年）9 月

横須賀市都市政策研究所

報告書の見方

1. 基本計画重点プログラム市民アンケートでは、各重点プログラムが実現を目指す都市の姿、その都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、実感を尋ねている。(P74 アンケート調査票参照)

(1) 現在について

重点プログラムの取り組みの方向性で掲げる状態にあるか

⇒ 「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定

(2) 以前との比較

重点プログラムの取り組みの方向性に向かって

⇒ 「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」「③変わっていない」「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、「⑥わからない」を設定

2. アンケートの設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI（ディフュージョンインデックス 景気動向指数／拡散指数）の考え方を利用している。

プラスの回答ポイント - マイナスの回答ポイント = DI として記述している。

※DI とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。
マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。

3. 集計結果では、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。回答率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。

・現在について 「①思う」 + 「② やや思う」

・以前との比較 「①よくなっている」 + 「②どちらかというよくなっている」

⇒プラスの回答ポイント

・現在について 「④ あまり思わない」 + 「⑤思わない」

・以前との比較 「④どちらかという悪くなっている」 + 「⑤悪くなっている」

⇒マイナスの回答ポイント

・DI がプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある

・DI がマイナス … アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

4. 調査結果では、各項目の平成 25 年度から 28 年度までの直近 3 カ年の DI の比較を行い、その数値の変化について以下の基準で記述している。また、参考として平成 23 年度の調査開始時から 28 年度への DI の推移を掲載している。

各年度間の差	状況
3 ポイント未満	変化なし
3 ～ 5 ポイント未満	大きな変化なし
5 ～ 10 ポイント未満	上昇 / 低下
10 ポイント以上	大幅に上昇 / 大幅に低下

目 次

I 調査目的および実施方法等	1
II 集計結果 –プログラム別の状況–	5
重点プログラム1 「新しい芽を育む」 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～	
1 取り組みの方向性の傾向	5
2 回答理由分類	9
重点プログラム2 「命を守る」 ～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	13
2 回答理由分類	17
重点プログラム3 「環境を守る」 ～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	21
2 回答理由分類	25
重点プログラム4 「にぎわいを生む」 ～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～	
1 取り組みの方向性の傾向	29
2 回答理由分類	33
重点プログラム5 「地域力を育む」 ～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～	
1 取り組みの方向性の傾向	37
2 回答理由分類	41
III 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について	45
1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向 ..	45
2 回答理由分類	48

IV 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）	
－優先して取り組むべき政策について－	50
1 優先して取り組むべき政策の傾向	50
2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感	52
V 横須賀市の住み良さや定住意識について	53
1 横須賀市の住み良さについて	53
2 横須賀市への定住意識について	55
VI 健康づくりについて	59
1 健康状態について	59
2 健康状態の把握手段について	60
3 ラジオ体操の実施の認知度について	61
4 ラジオ体操への参加について	62
5 ラジオ体操に参加していない理由について	63
6 習慣的な運動の実施状況について	64
VII 地産地消について	65
1 農水産物の産地に対する意識について	65
2 横須賀市産の農水産物の選択について	66
VIII 横須賀製鉄所（造船所）について	67
1 横須賀製鉄所の認知度について	67
2 横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について	68
3 富岡製紙場と横須賀製鉄所の関係の認知度について	69
4 150周年記念事業の実施による横須賀製鉄所への理解の深まりについて	70
基本的な属性（F1～F6）	71
調査票	74

I 調査目的および実施方法等

1 調査目的

- (1) 横須賀市基本計画（2011～2021）に掲げた重点プログラムの目的である「持続可能な発展に必要な都市力（都市の魅力）」の向上や、各プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、市民の実感を把握し、今後の政策・施策の改善に活用する。
- (2) 重点プログラムを効果的に推進するため、プログラムを構成する事業を検証し、今後の方向性を検討する重点政策・施策評価に活用する。

2 調査項目

問 1～10	「都市の姿を実現するための取り組みの方向性」について
問 11	「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」について
問 12	「優先して取り組むべき政策」について
問 13	「横須賀市の住み良さ」について
問 14～16	「横須賀市への定住意識」について
問 17～22	「健康づくり」について
問 23・24	「地産地消」について
問 25～28	「横須賀製鉄所（造船所）」について

<基本的な属性>

F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 /
F 5 世帯の状況 / F 6 居住年数

3 調査項目と重点プログラムの対応関係

アンケートの調査項目のうち、問1～問10は、各重点プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性に対応した設問である。

また、問11は、重点プログラムの目的である「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」についての設問で、いずれも、**市民の実感**を尋ねる内容となっている。

調査項目と基本計画重点プログラムの対応関係

重点プログラム	取り組みの方向性		対応する設問
1 新しい芽を育む	1-1	子どもを産み育てやすいまちづくり	問1
	1-2	人間性豊かな子どもの育成	問2
2 命を守る	2-1	誰もが活躍できるまちづくり	問3
	2-2	安全で安心なまちづくり	問4
3 環境を守る	3-1	人と自然が共生するまちづくり	問5
	3-2	地球環境に貢献するまちづくり	問6
4 にぎわいを生む	4-1	地域経済の活性化と雇用の創出	問7
	4-2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	問8
5 地域力を育む	5-1	地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	問9
	5-2	地域を支えるコミュニティー機能の強化	問10

4 調査対象および回収数

調査対象：横須賀市に在住の15歳以上の市民 2,000人

(平成28年4月1日現在；住民基本台帳から無作為抽出)

回収数	回収率	昨年度比
587件	29.4%	▲6.5ポイント

5 実施方法

郵送による発送および回収

アンケートの実施に際しては、昨年度の調査同様、基本計画に掲げた重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封した。

【昨年度の調査との変更点】

(1) 設問の変更

横須賀市の魅力、イメージや横須賀市への愛着を尋ねる設問について、過年度の調査結果において経年の変化があまり見られないことから、毎年度ではなく一定の間隔を空けて設問することとし、今年度の設問を見送った。

(2) 設問の追加

平成 27 年度に横須賀製鉄所（造船所）が開設 150 周年を迎えたことに伴い、昨年度に実施した 150 周年記念事業による横須賀製鉄所への理解の深まりを把握する設問を追加した。（P89 調査票参照）

6 実施時期

平成 28 年（2016 年）4 月 26 日 ～ 5 月 18 日 * 発送日－投函締切日

7 調査の企画・分析

横須賀市都市政策研究所で実施

II 集計結果 –プログラム別の状況–

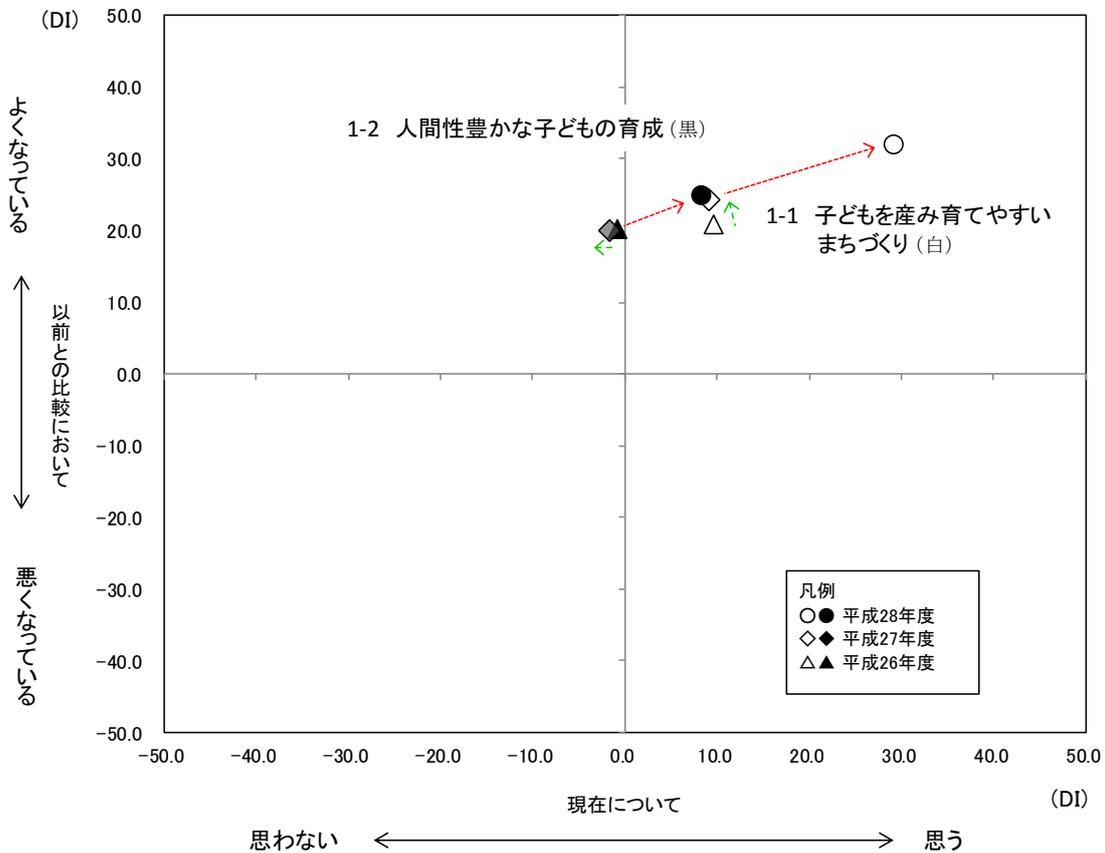
重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

(設問)

- 1-1 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
1-2 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまち
だと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-1 重点プログラム1の取り組みの方向性の状況 (H28-26年度比較)



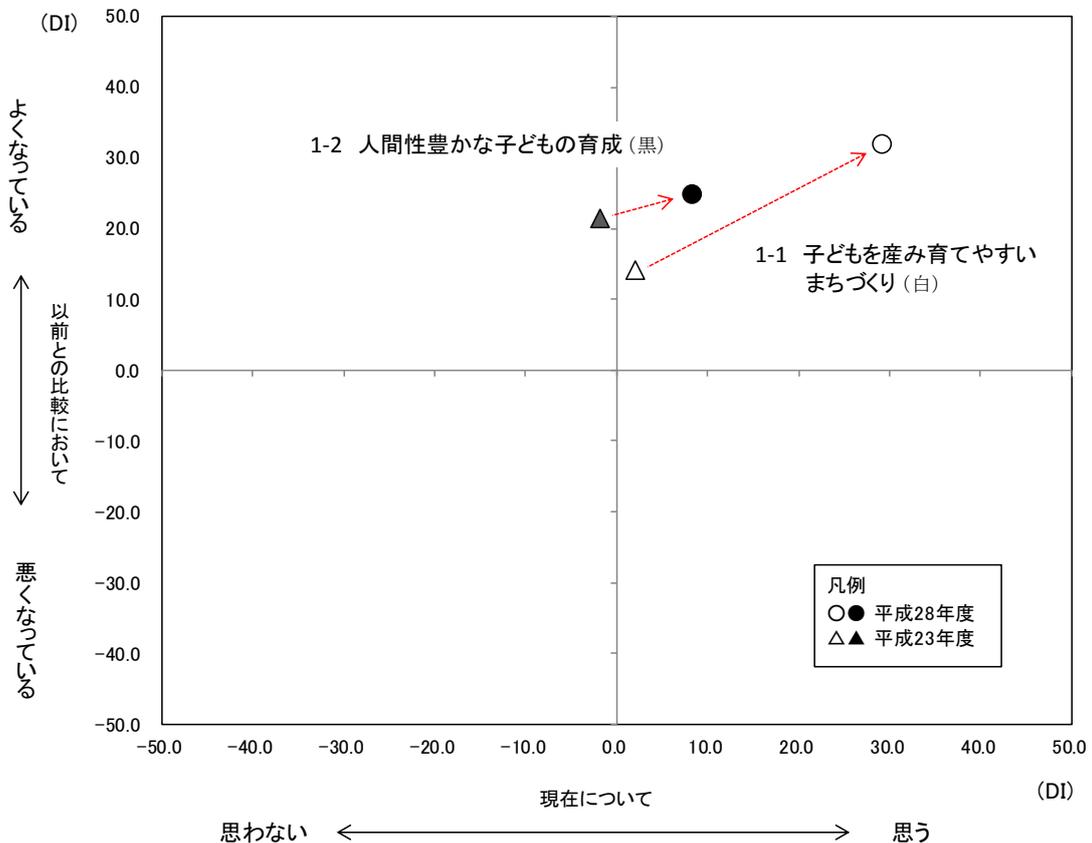
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					前年度比	28-23年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)			
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	28年度	404	52.2	25.0	22.8	29.4	20.3	27.4	
	27年度	481	40.5	28.1	31.4	9.1	▲ 0.6		
	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	▲ 1.8		
	25年度	540	41.3	28.9	29.8	11.5	5.6		
	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9		
	23年度	597	38.2	25.6	36.2	2.0	—		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	28年度	372	37.4	33.6	29.0	8.4	10.0	10.3	
	27年度	439	32.8	32.8	34.4	▲ 1.6	▲ 0.7		
	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	▲ 10.5		
	25年度	489	39.7	30.3	30.1	9.6	9.9		
	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6		
	23年度	555	31.4	35.3	33.3	▲ 1.9	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					前年度比	28-23年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)			
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	28年度	330	47.6	36.7	15.8	31.8	7.5	17.7	
	27年度	413	41.7	40.9	17.4	24.3	3.4		
	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	▲ 2.4		
	25年度	434	41.0	41.2	17.7	23.3	5.5		
	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7		
	23年度	524	37.6	38.9	23.5	14.1	—		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	28年度	292	39.4	45.9	14.7	24.7	4.7	3.2	
	27年度	359	32.8	54.3	12.8	20.0	▲ 0.2		
	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	▲ 7.4		
	25年度	406	39.2	49.3	11.6	27.6	▲ 0.4		
	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5		
	23年度	476	35.3	50.8	13.8	21.5	—		

【参考】 重点プログラム1の取り組みの方向性の状況 (H28-23年度比較)



(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度調査から数値が大幅に上昇している。主な回答理由に小児医療費助成（小児医療費助成対象年齢の拡大）についての記載が多く見られたことから、当該施策の充実が直接市民の実感に影響を与えたと考えられる。また、「以前との比較」では平成24年度以降概ね20ポイントから30ポイントの比較的高い値となっていることから、実感が得られている状態といえる。なお、この取り組みの方向性は、優先して取り組むべき政策として、最も多く選択された項目である。（P50参照）

現在について			以前との比較							
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)			
9.7	→	9.1	→	29.4	20.3	→	24.3	→	31.8	7.5
			大幅に 上昇				上昇			

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

前年度調査と比較して「子育て支援施策や助成等の充実」が大きく伸びており、小児医療費助成（小児医療費助成対象年齢の拡大）についての記載が多く見られた。次いで「自然環境の充実」が多く挙げられ、ほかに環境のよさ、子育て関連施設や遊び場の充実などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

産科などの「医療体制が不十分（医師数含む）」が最も多く挙げられているが、前年度調査と比較すると減少傾向にある。次いで「子どもを預ける場が不十分」が挙げられているほか、中学校給食がないことに関する記載も多く見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「子育て支援施策や助成の充実」が突出して多く挙げられ、ここでも、小児医療費助成についての記載が多く見られた。次いで「子どもを預ける場の充実」、「子育て関連施設や遊び場の充実」が多く挙げられたが、「子どもを預ける場の充実」については「現在について」の否定的な回答理由としても2番目に多く挙げられており（P9参照）、実感としてはまだ不足感がうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、産科、小児科、総合病院などの「医療体制が不十分」が多く挙げられている。

（回答理由分類についてはP9参照）

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、特に「現在において」で数値が大幅に上昇している。また、「以前との比較」では平成23年度以降ほぼ横ばいで推移している状況だが、約25ポイントの比較的高い値となっていることから、実感が得られている状態といえる。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
▲ 0.9 → ▲ 1.6 → 8.4	10.0 大幅に 上昇	20.2 → 20.0 → 24.7	4.7 大きな 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

市の施策の充実についてが最も多く挙げられている。次いで、自然環境がよい、公園が多いなどの記載が多く見られた。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

市の施策の具体的な内容が見えない、実感がないといった記載が最も多い。次いで「教育環境が不十分」が多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

市の施策の充実が多く挙げられ、特に放課後教室や支援教育などの教育環境の充実や、学校施設設備の充実についての記載が多く見られた。

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「人間関係の希薄化」などが挙げられ、少子化やコミュニケーションの変容などによる他者との関わり合いについて触れている回答が見られた。また、道徳教育や大人の様子、家庭におけるしつけなど、子どもたちの変化、子どもを取り巻く環境の変化を感じている様子が見られる。

(回答理由分類についてはP11参照)

2 回答理由分類

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成等の充実	42	24.1
小児医療費助成	(23)	
自然が多い、海・山がある、気候が温暖など自然環境の充実	42	24.1
環境がよい、住みやすい、子育てで不便を感じない	16	9.2
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	15	8.6
公園の充実	(10)	
子どもを預ける場の充実	8	4.6
幼稚園・保育園(認定こども園)の充実、待機児童の減少	(7)	
地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性	6	3.4
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い	6	3.4
教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い	4	2.3
治安がよい、安全	4	2.3
病院など医療体制の充実	3	1.7
都心に近い、交通利便性が高い	2	1.1
その他、意見等	16	9.2
否定的な回答理由	10	5.7
	174	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分(医師数を含む)	17	16.0
産科が不十分	(13)	
小児科が不十分	(2)	
子どもを預ける場が不十分	13	12.3
幼稚園・保育園が不十分、待機児童数が多い	(8)	
学童クラブが不十分	(3)	
施策が不十分、特色がない	13	12.3
中学校給食がない	(10)	
医療、出産、保育、教育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	12	11.3
小児医療費助成	(6)	
公園や遊び場、子育て関連施設の不足、規制が多い	12	11.3
他都市との比較によるサービスの不足、遅れている	4	3.8
教育施設が不十分、教育の質がよくない	4	3.8
子どもが少ない、見かけない	4	3.8
雇用が少ない、市内で働いて子育てができない	4	3.8
人口減少、若年層の減少	4	3.8
公共交通の利便性が低い	2	1.9
PR、情報発信が少ない	2	1.9
その他、意見等	15	14.2
	106	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成の充実	41	38.7
小児医療費助成	(27)	
子どもを預ける場の充実	9	8.5
幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少	(5)	
学童クラブの充実	(2)	
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	9	8.5
公園の充実	(5)	
人から聞いて、事業内容を見て	5	4.7
産科、病院など医療体制の充実	4	3.8
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実	4	3.8
市の努力が見える	4	3.8
治安がよい、安全	3	2.8
子どもたちの様子を見て（あいさつなど）	2	1.9
子どもを見かける、若い世帯の増加	2	1.9
子どもに対する大人の意識の変化（目を向けている）	2	1.9
その他、意見等	19	17.9
否定的な回答理由	2	1.9
	106	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分	10	19.6
産科が不十分	(7)	
子どもが少ない、見かけない	7	13.7
人口減少、転出、若年層の流出	4	7.8
子どもを預ける場が少ない、幼稚園・保育園の不足	4	7.8
公園や子育て関連施設、遊び場の不足、未整備	3	5.9
雇用が少ない、働きながら子育てがしにくい	3	5.9
教育環境が不十分（学校が遠い）	3	5.9
昔の方がよかった、以前の方が便利だった	2	3.9
子どもの減少に伴う地域活動の衰退	2	3.9
その他、意見等	13	25.5
	51	100

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	26	25.5
学力向上、教育環境の充実	(8)	
いじめ・不登校対策	(4)	
国際コミュニケーション能力育成 (ALT)	(3)	
自然環境がよい	14	13.7
公園など遊び場の充実、社会教育施設の充実	9	8.8
子どもたちの様子を見て	8	7.8
元気、のびのびしている、素直	(4)	
あいさつをしてくれる	(4)	
外国人との交流ができる	6	5.9
地域の子育て・教育支援体制の充実、学校と地域の連携	6	5.9
環境がよい、環境整備が進んでいる	5	4.9
人から聞いて、事業内容を見て	3	2.9
イベントの開催	3	2.9
その他、意見等	16	15.7
否定的な回答理由	6	5.9
	102	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	13	16.7
教育環境が不十分	11	14.1
教員の資質がよくない	(4)	
施策が不十分	7	9.0
いじめ・不登校がある	(3)	
大人・親がよくない、しつけができていない	6	7.7
子どもたちの様子を見て	5	6.4
公園などの遊び場が不十分、子育て・社会教育施設が不十分	5	6.4
変化を感じない	4	5.1
人口減少、若年層の流出、若年層が増えない	3	3.8
子育て世帯への支援が不十分	2	2.6
保育園、学童クラブが不十分	2	2.6
環境を生かしていない (自然、基地など)	2	2.6
施策の考え方・方向性に疑問がある	2	2.6
人間関係の希薄化、大人と子どもの交流がない	2	2.6
その他、意見等	14	17.9
	78	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	22	36.1
学力向上、教育環境の充実	(7)	
学校施設設備の充実	(6)	
国際コミュニケーション能力育成 (ALT)	(2)	
変化が見える、改善されている	7	11.5
公園など遊び場の充実、社会教育施設の充実	4	6.6
子どもたちの様子を見て	3	4.9
道路・歩道の整備	2	3.3
市の努力が見える	2	3.3
事業内容を見て	2	3.3
その他、意見等	15	24.6
否定的な回答理由	4	6.6
	61	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人間関係の希薄化、大人と子どもの交流がない	6	16.7
昔の方がよかった、学校が悪化している	6	16.7
大人・親がよくない、しつけができていない	3	8.3
環境を生かせていない (自然、基地など)	3	8.3
公園などの遊び場が不十分、子育て・社会教育施設が不十分	3	8.3
子どもたちの様子を見て	2	5.6
スマートフォン、ゲーム依存	(2)	
人口減少、若年層の流出、若年層が増えない	2	5.6
その他、意見等	11	30.6
	36	100

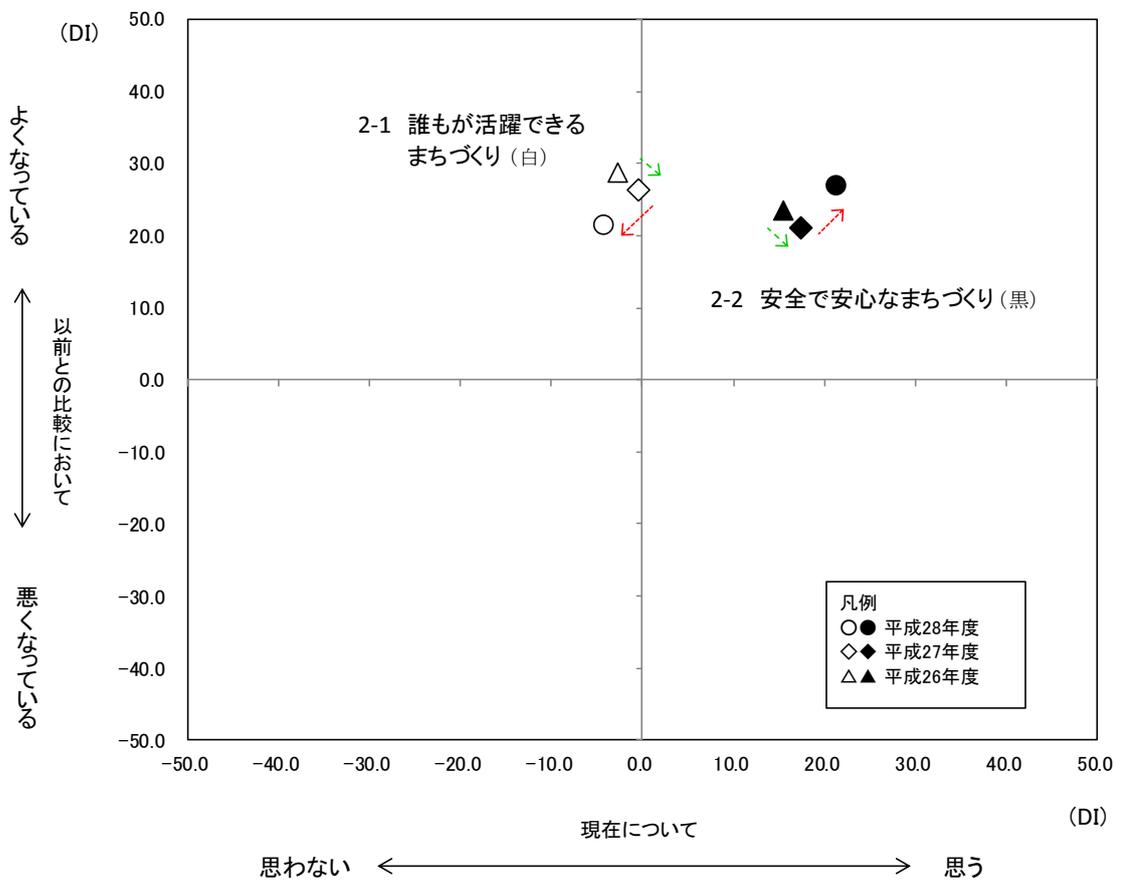
重点プログラム2 『命を守る』
～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

(設問)

- 2-1 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。
- 2-2 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-2 重点プログラム2の取り組みの方向性の状況 (H28-26年度比較)



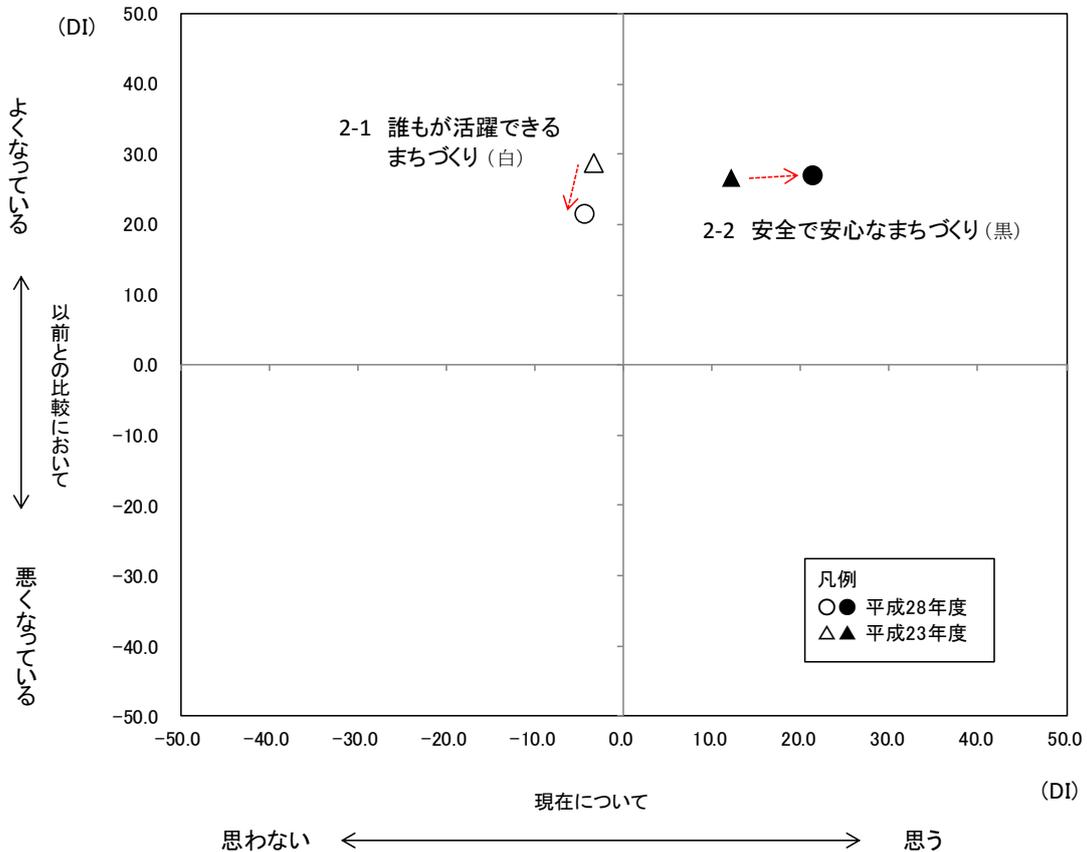
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	28年度	478	31.6	32.6	35.8	▲ 4.2	▲ 3.8	▲ 0.8
	27年度	577	34.3	31.0	34.7	▲ 0.4	2.4	
	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	▲ 8.0	
	25年度	607	38.1	29.0	32.9	5.2	7.8	
	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	28年度	544	47.4	26.7	25.9	21.5	4.0	9.4
	27年度	675	45.6	26.2	28.1	17.5	2.0	
	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	9.1	
	25年度	703	40.5	25.3	34.1	6.4	3.8	
	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5	
23年度	711	44.8	22.5	32.7	12.1	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっ ていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	28年度	385	35.8	49.6	14.5	21.3	▲ 4.9	▲ 7.4
	27年度	465	36.6	53.1	10.4	26.2	▲ 2.6	
	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	▲ 5.4	
	25年度	509	44.4	45.4	10.2	34.2	2.5	
	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	28年度	473	39.7	47.4	12.9	26.8	5.8	0.1
	27年度	586	35.8	49.3	14.8	21.0	▲ 2.5	
	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	3.8	
	25年度	619	37.6	44.4	17.9	19.7	▲ 0.1	
	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9	
23年度	645	41.0	44.7	14.3	26.7	—		

【参考】重点プログラム2の取り組みの方向性の状況 (H28-23 年度比較)



(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」でマイナスで、前年度調査から大きな変化も見られなかった。「以前との比較」では3カ年で7.5ポイント減少しているが、20ポイントを超えるプラス値で推移しており、実感は保たれているとみることできる。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
▲ 2.8 → ▲ 0.4 → ▲ 4.2	▲ 3.8 大きな 変化なし	28.8 → 26.2 → 21.3	▲ 4.9 大きな 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備」として市の施策の充実が多く挙げられている。ほかに、障害者の就労者数の増加やボランティア活動の増加などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「雇用・企業の減少」が前年度と比べて増加しており、「誰もが活躍できる」という言葉から想起される状況として「雇用の安定」が大きな要素となっている様子が見える。次いで、坂・階段の多さやバリアフリー対策が不十分などについての記載が多く見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、市の施策の充実が最も多く挙げられている。次いで、「福祉への理解・意識の向上」や「施設の充実」が多く挙げられ、福祉に関する取り組みに対する実感がうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「雇用・企業の減少」が最も多い。ほかに、少子高齢化の進行やまちの衰退に伴う活気の減少などが挙げられている。

(回答理由分類についてはP17参照)

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」ともに20ポイント以上のプラス値となった。特に、「現在について」では3カ年で6ポイント増加しており、実感は得られてきている状態といえる。

現在について			以前との比較			
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)		年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)		年度差と状況 (対27年度)	
15.5	→ 17.5	→ 21.5	4.0	大きな 変化なし	23.5 → 21.0 → 26.8	5.8 上昇

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「犯罪・事件が少ない、治安がよい」が多く挙げられ、突出している。ほかに、「不安や危険を感じない、安心して生活できている」として、住環境のよさや日常生活における安心感が多く挙げられている。この傾向は前年度調査と同様である。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる」が多く挙げられたほか、米軍基地や原子力空母に関する意見や、地震や津波などの災害に対する不安が多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「防災・災害対策の充実」が最も多く挙げられたほか、前年度調査と比較して街路防犯灯のLED化に関する記載が増加しており、目に見える対策に関する安心感がうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる」など、この取り組みの方向性全体の傾向として、体感治安に関する理由が多く挙げられている。これは前年度調査と同様の傾向である。

(回答理由分類についてはP19参照)

2 回答理由分類

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	18	18.4
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(4)	
高齢者・介護施策	(4)	
障害者施策、特別支援教育	(3)	
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	13	13.3
就労場所の増加	8	8.2
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て	(7)	
活躍している、活躍する人・場の増加	8	8.2
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(5)	
検診事業、病院など医療体制の充実	6	6.1
高齢者・障害者の外出が多い	5	5.1
高齢者や障害者への配慮ができていて、思いやりがある	5	5.1
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	4	4.1
本人の意思があれば活躍できる	4	4.1
元気な人が多い	3	3.1
バリアフリー対策等、高齢者・障害者向けの施設整備	3	3.1
その他、意見等	15	15.3
否定的な回答理由	6	6.1
	98	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
雇用・企業の減少	25	19.4
バリアフリー対策が不十分、坂・階段が多い、交通が不便	21	16.3
雇用の偏り	8	6.2
若年層の雇用が少ない	(2)	
高齢者の雇用が少ない	(2)	
高齢者・障害者施策、支援体制や助成が不十分	8	6.2
活躍の場が少ない、活躍しているのは一部の人のみ	8	6.2
具体的な取り組みが見えない、分からない	6	4.7
高齢化、若年層が少ない	5	3.9
PR、情報発信不足	4	3.1
弱者に冷たい、理解がない、孤立化	4	3.1
高齢者には不便、高齢化への対応が不十分	4	3.1
施策が高齢者に偏っている、若年層向けの施策が少ない	4	3.1
差別・偏見がある	3	2.3
他都市と比較して劣っている、他都市と同じ	3	2.3
まちが衰退している、活気がない	3	2.3
その他、意見等	23	17.8
	129	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	15	18.5
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(2)	
障害者施策	(2)	
福祉への理解・意識の向上、やさしくなった	9	11.1
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	7	8.6
活躍している、活躍する人・場の増加	7	8.6
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(4)	
防災対策など安全・安心面の充実	6	7.4
市の努力が見える	6	7.4
バリアフリー対策等、高齢者・障害者向けの施設整備	5	6.2
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	4	4.9
検診事業、病院など医療体制の充実	3	3.7
イベント・講座の増加	2	2.5
その他、意見等	13	16.0
否定的な回答理由	4	4.9
	81	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
雇用・企業の減少	11	26.8
高齢化、子ども・若年層が少ない	6	14.6
まちが衰退している、活気がない	6	14.6
弱者に冷たい、やさしさが無い	3	7.3
歩道が狭い、坂・階段が多い、交通が不便	3	7.3
その他、意見等	12	29.3
	41	100

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が少ない、治安がよい	60	34.9
不安や危険を感じない、安心して生活できている	14	8.1
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	14	8.1
防犯パトロール	(2)	
子ども見守り隊	(3)	
防災・災害対策の充実	13	7.6
交通安全対策の充実、事故の減少、通学路・道路整備	12	7.0
防犯設備、防犯体制の充実	12	7.0
街路防犯灯	(6)	
他都市と比較してよい	11	6.4
警察の存在、警察による巡回、自衛隊・米軍の存在	7	4.1
気候が温暖で災害が少ない	3	1.7
地域の間関係のつながり、意識の向上、市民共助	3	1.7
その他、意見等	15	8.7
否定的な回答理由	8	4.7
	172	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	33	26.4
空き巣被害	(6)	
暴走族、若年層のバイク暴走、夜遊び	(4)	
不審者がいる、防災メールでの不審者情報が多い	(3)	
米軍、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ	27	21.6
山・崖の多さや津波などの災害への不安、活断層がある	18	14.4
通学路・歩道・道路の整備が不十分、交通機関の遮断	10	8.0
事故が多い、交通マナーが悪い、路上駐車が多い	8	6.4
外国人、米軍人の存在、それらによる事件	6	4.8
防犯設備、防犯体制が不十分	3	2.4
街路防犯灯が少ない、夜道が暗い	(3)	
防災・災害対策が不十分	2	1.6
警察の巡回・対応が不十分、交番の場所が分からない	2	1.6
地域関係の希薄化、地域づくりが進んでいない	2	1.6
その他、意見等	14	11.2
	125	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
防災・災害対策の充実	18	17.6
崖地・急傾斜地崩壊対策	(3)	
津波・越波・海岸侵食対策、護岸整備	(2)	
改善されている、以前からよい	15	14.7
防犯設備、防犯体制の充実	14	13.7
街路防犯灯の設置	(11)	
交通安全対策の充実、事故の減少、通学路・道路整備	12	11.8
犯罪・事件の減少、治安がよい	7	6.9
努力が見える、取り組みが見える	7	6.9
地域の間関係のつながり、意識の向上、市民共助	5	4.9
米軍・自衛隊の規律保持への努力、市民の理解	5	4.9
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	3	2.9
施策の充実	2	2.0
その他、意見等	8	7.8
否定的な回答理由	6	5.9
	102	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる	12	28.6
米軍基地がある	4	9.5
事故が多い、交通マナーが悪い	3	7.1
通学路・道路・歩道の整備が不十分、交通量が多い	2	4.8
新港町への救急医療センター、公共施設の移転	2	4.8
山・崖の多さや津波などの災害への不安	2	4.8
全国的に悪化している	2	4.8
防災・災害対策が不十分	2	4.8
その他、意見等	13	31.0
	42	100

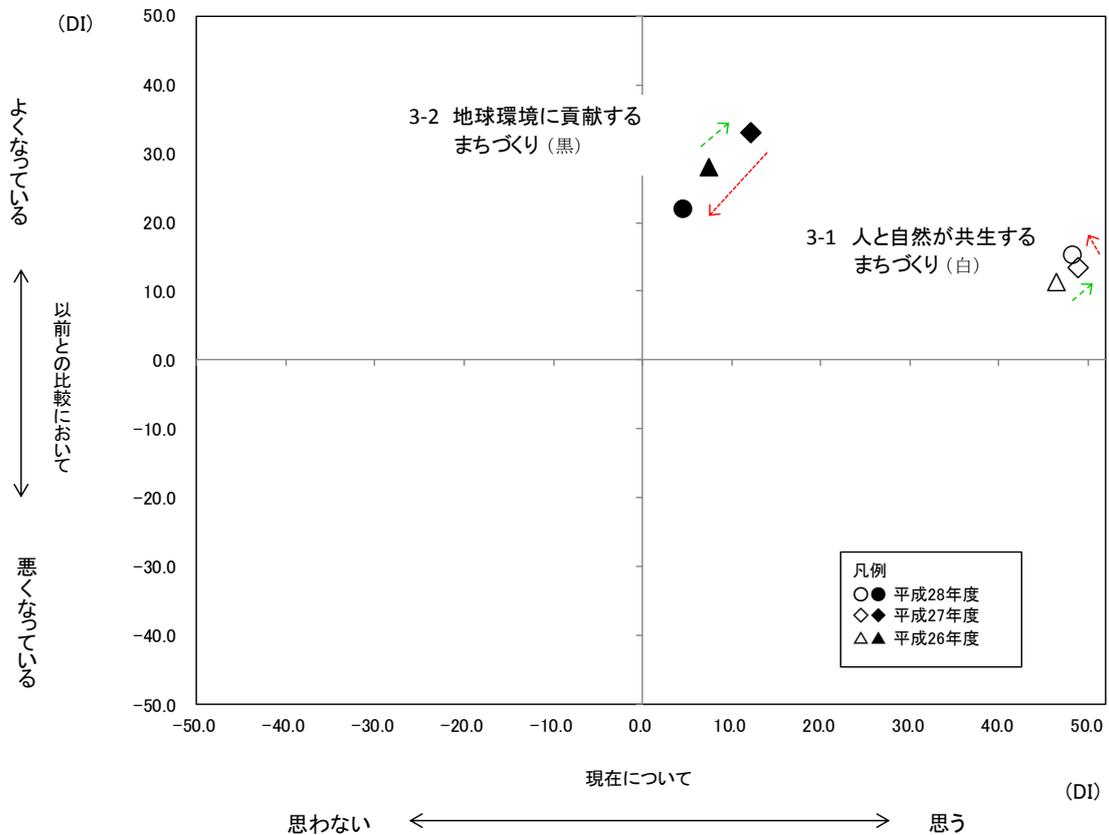
重点プログラム3 『環境を守る』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

(設問)

- 3-1 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか
- 3-2 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-3 重点プログラム3の取り組みの方向性の状況 (H28-26年度比較)



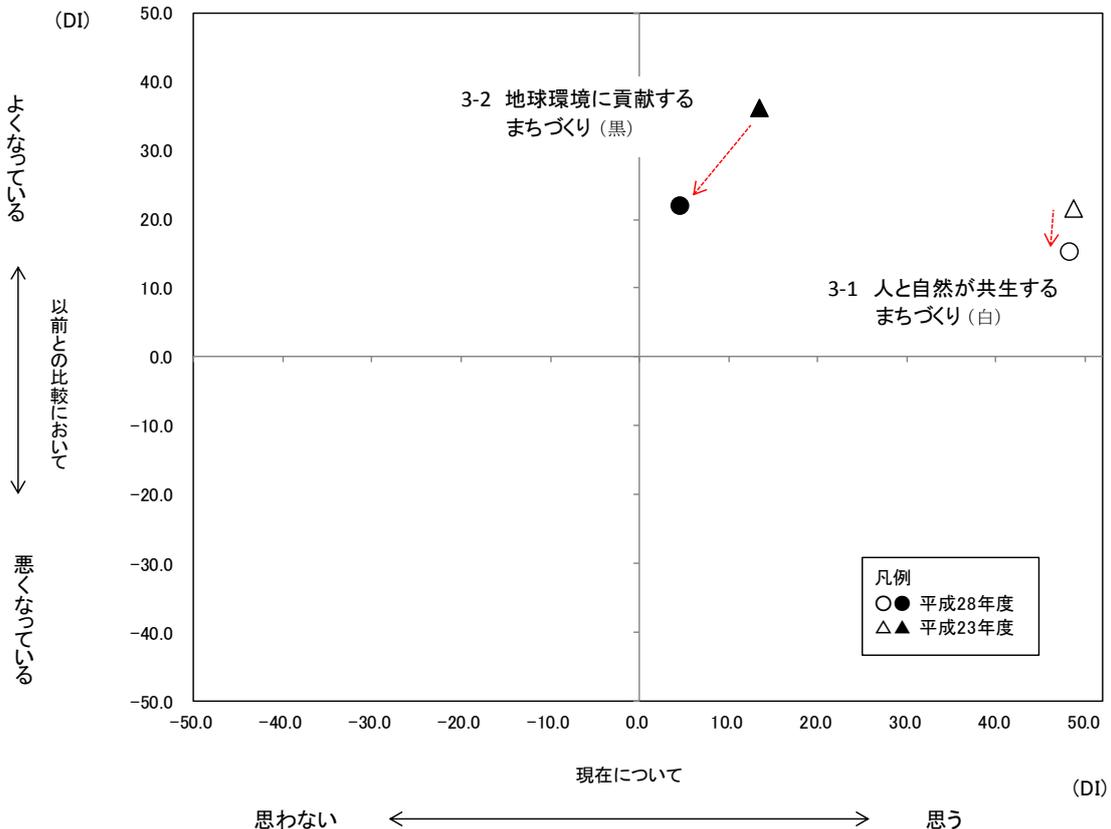
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	28年度	547	65.4	17.6	17.0	48.4	▲ 0.5	▲ 0.3
	27年度	651	67.4	14.0	18.5	48.9	2.4	
	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	▲ 5.4	
	25年度	686	68.5	14.9	16.6	51.9	6.5	
	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3	
	23年度	716	68.2	12.3	19.5	48.7	—	
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	28年度	441	35.4	33.8	30.8	4.6	▲ 7.5	▲ 8.9
	27年度	549	40.9	30.2	28.8	12.1	4.7	
	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	▲ 18.8	
	25年度	616	50.6	25.0	24.4	26.2	8.1	
	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6	
	23年度	666	43.4	26.7	29.9	13.5	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	28年度	476	33.6	47.9	18.5	15.1	1.6	▲ 6.5
	27年度	579	34.2	45.1	20.7	13.5	2.2	
	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	▲ 19.2	
	25年度	603	46.6	37.3	16.1	30.5	9.2	
	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3	
	23年度	641	44.1	33.4	22.5	21.6	—	
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	28年度	375	32.5	56.8	10.7	21.8	▲ 11.3	▲ 14.3
	27年度	470	40.7	51.7	7.6	33.1	5.0	
	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	▲ 8.7	
	25年度	532	46.6	43.6	9.8	36.8	0.4	
	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3	
	23年度	584	46.2	43.7	10.1	36.1	—	

【参考】重点プログラム3の取り組みの方向性の状況 (H28-23年度比較)



(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、特に「現在について」では50ポイント近い値を示し、実感が得られている状況といえる。前年度調査からはいずれも変化が見られなかったが、「現在について」は、3カ年を通じて高い値で推移している。

現在について				以前との比較							
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)				
46.5	→	48.9	→	48.4	▲ 0.5	11.3	→	13.5	→	15.1	1.6
				変化なし					変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「海や山などの自然が多い、緑豊か、気候がよい」など本市の自然環境そのもののよさが突出して多く挙げられ、前年度調査と同様に自由記述回答者の中での割合も5割を超えている。次いで、「自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進」として身近に自然を感じられる環境について多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「自然の減少、自然破壊」が最も多く、自由記述回答者の5割を超えている。そのうち「宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化」が多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進」として市の施策の充実が最も多く挙げられている。次いで、「公園・海岸・遊歩道・散歩コース等の整備」が多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「自然の減少、自然破壊」が突出して多く、自由記述回答者の6割を超えている。また、開発による自然破壊によるものが多く挙げられている。これらは前年度調査と同様の傾向である。

(回答理由分類についてはP25参照)

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、特に「以前との比較」では20ポイントを超える高い値を示している。両者ともに前年度調査からは低下しており、ごみの分別やリサイクルが日常的に当然のこととして浸透していることが要因と考えることもできるが、今後の動向に留意する必要がある。

現在について				以前との比較									
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)						
7.4	→	12.1	→	4.6	▲ 7.5	低下	28.1	→	33.1	→	21.8	▲ 11.3	大幅に 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が突出して多く挙げられており、なかでもごみの分別の評価に関する記載が多く見られた。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄などマナーが悪い」が最も多く挙げられている。上記のように、ごみの分別やリサイクルについての肯定的な回答が多く挙げられている一方で、特に市街地におけるごみ・たばこのポイ捨てに関する意見も多く挙げられており、ごみに対する問題意識の高さがうかがえる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「環境施策、取り組みの充実」が最も多く挙げられ、「EV（電気自動車）」の普及に関する記載が多く見られた。次いで、「分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が多く挙げられ、ごみの分別やリサイクルの浸透に関する記載が見られた。

◆以前との比較「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「環境破壊、自然の減少、自然破壊」や「ごみ・たばこのポイ捨て」に関するものが挙げられている。

(回答理由分類については P27 参照)

2 回答理由分類

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
海や山などの自然が多い、緑豊か、気候がよい	127	50.6
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	24	9.6
自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い	20	8.0
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	16	6.4
まちづくりがよい、環境がよい、暮らしやすい	16	6.4
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	10	4.0
利便性と自然の両立、首都圏でありながら自然が多い	5	2.0
農水産業が盛ん	4	1.6
他都市と比較して自然が多い	3	1.2
その他、意見等	18	7.2
否定的な回答理由	8	3.2
	251	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	34	52.3
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(14)	
自然とふれあえる場所や機会の減少、自然が活用されていない	7	10.8
市の取り組みが不十分、手入れがされていない、放置	4	6.2
自然を身近に感じない	2	3.1
ごみやたばこのポイ捨てなどマナーが悪い	2	3.1
その他、意見等	16	24.6
	65	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	14	21.2
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	13	19.7
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	5	7.6
海・山など自然が多い	4	6.1
地域やボランティアの清掃活動、街路樹や花壇の整備などが盛ん	3	4.5
暮らしやすい	3	4.5
海・河川がきれいになった	2	3.0
市全体で努力している	2	3.0
まちなかのみどりや花の増加	2	3.0
その他、意見等	11	16.7
否定的な回答理由	7	10.6
	66	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	43	63.2
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(22)	
自然環境の保護・保全、環境施策が不十分	5	7.4
まちづくりや保全・活用に計画性がない、中途半端	2	2.9
ごみやたばこのポイ捨てなどマナーが悪い	2	2.9
海が汚い	2	2.9
空き家の増加	2	2.9
その他、意見等	12	17.6
	68	100

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実 (アイクル)	46	45.1
ごみ処理施設の建設	(2)	
環境施策、取り組みの充実	11	10.8
地域活動・市民活動・ボランティア活動が盛ん	7	6.9
自然が多い、まちなかのみどりが多い	6	5.9
市民への意識啓発、市民の意識向上	4	3.9
小学生のアイクル見学、環境教育の充実	4	3.9
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、ポイ捨て防止活動・啓発	3	2.9
自然環境の整備・保護	2	2.0
事業内容を見て	2	2.0
その他、意見等	13	12.7
否定的な回答理由	4	3.9
	102	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄などマナーが悪い	19	24.4
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	17	21.8
環境施策や取り組みが不十分	8	10.3
基地、原子力空母、核燃料関連施設がある	6	7.7
再生可能エネルギーの利活用が進んでいない	6	7.7
環境破壊、自然の減少、自然破壊	3	3.8
その他、意見等	19	24.4
	78	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境施策、取り組みの充実	20	29.9
EV（電気自動車）	(8)	
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）	12	17.9
ごみ処理施設の建設	(3)	
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少、まちがきれい	5	7.5
意識啓発、市民の意識向上	5	7.5
地域活動やボランティア活動が盛ん	4	6.0
自然環境の整備・保護、緑化	3	4.5
環境教育の充実	3	4.5
海・河川がきれい	2	3.0
その他、意見等	11	16.4
否定的な回答理由	2	3.0
	67	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境破壊、自然の減少、自然破壊	4	18.2
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊	(3)	
ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄、分別などマナーが悪い	4	18.2
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	3	13.6
その他、意見等	11	50.0
	22	86

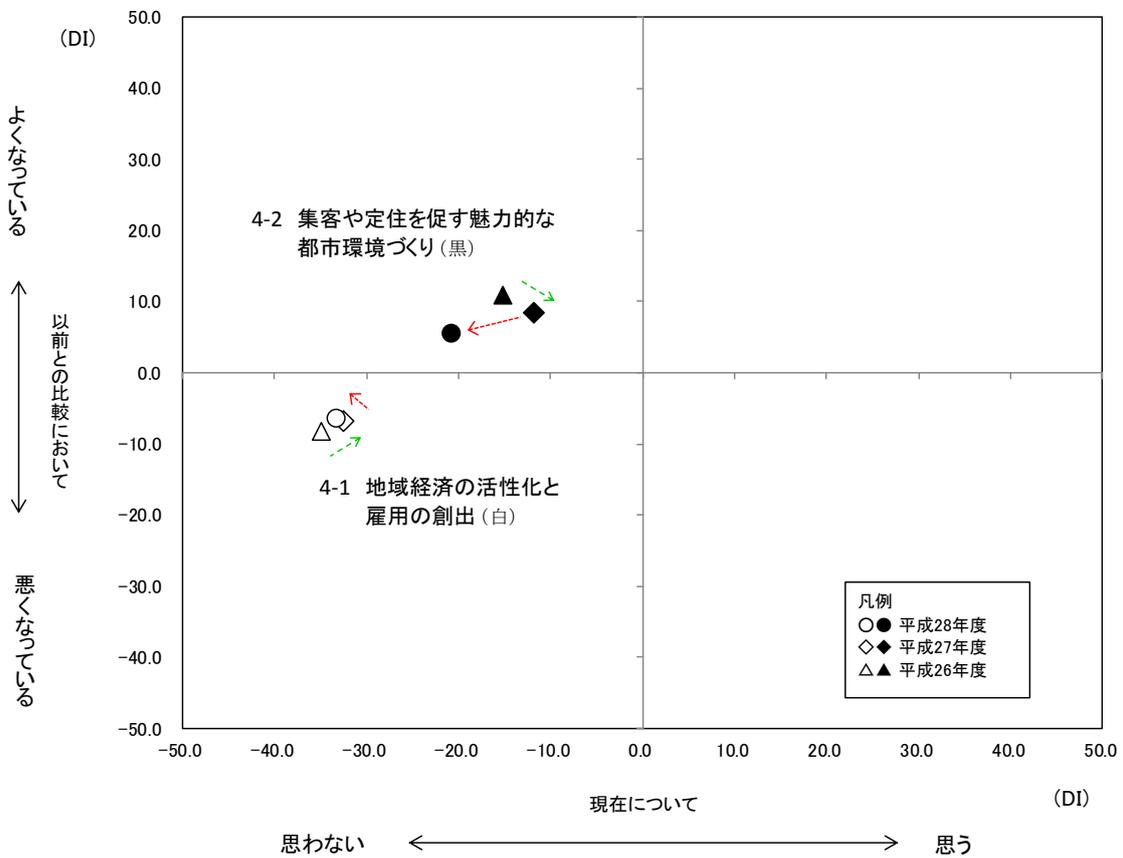
**重点プログラム4 『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～**

(設問)

- 4-1 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。
- 4-2 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-4 重点プログラム4の取り組みの方向性の状況 (H28-26年度比較)



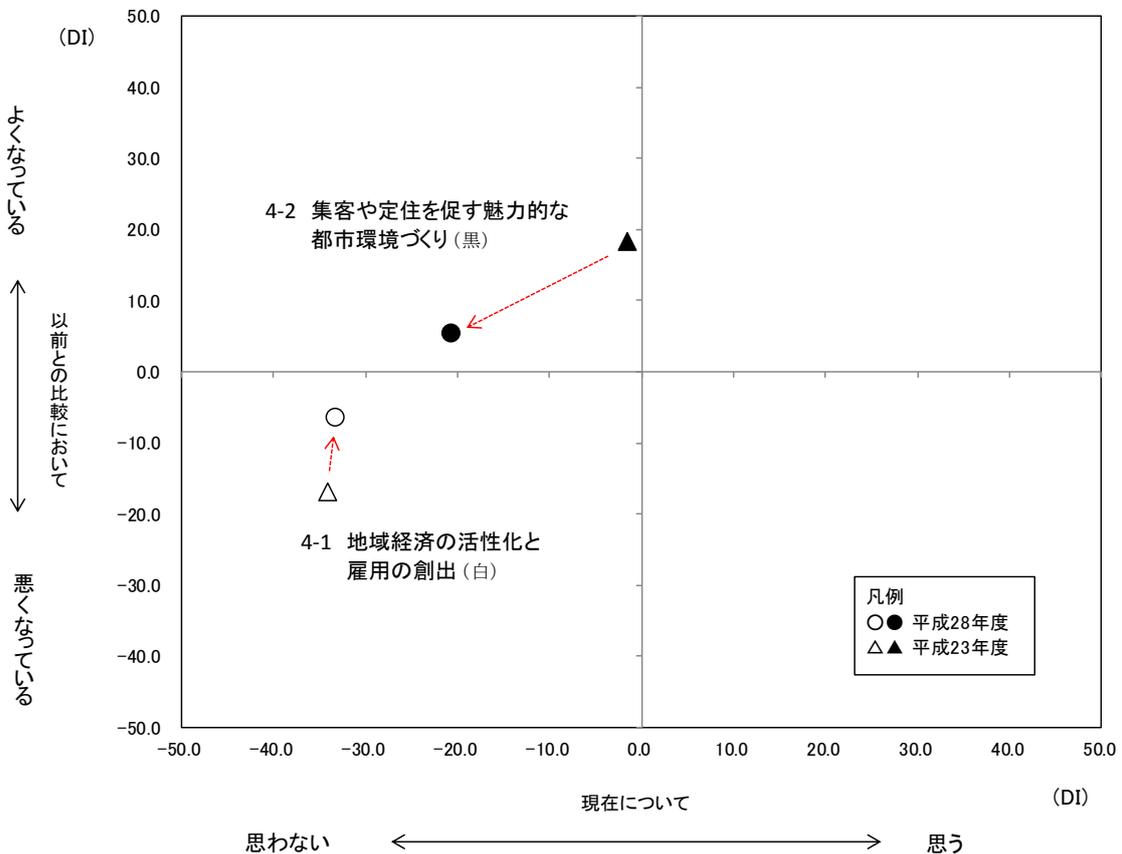
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	28年度	484	20.5	25.8	53.7	▲ 33.2	▲ 0.7	0.9
	27年度	600	24.0	19.5	56.5	▲ 32.5	2.5	
	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	▲ 6.7	
	25年度	628	24.4	22.9	52.7	▲ 28.3	4.0	
	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8	
	23年度	653	20.2	25.6	54.3	▲ 34.1	—	
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり	28年度	517	28.2	22.8	48.9	▲ 20.7	▲ 8.8	▲ 19.2
	27年度	634	32.4	23.3	44.3	▲ 11.9	3.3	
	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	▲ 14.4	
	25年度	657	37.1	25.0	37.9	▲ 0.8	4.3	
	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6	
	23年度	685	37.0	24.5	38.5	▲ 1.5	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	28年度	436	26.8	39.9	33.3	▲ 6.5	0.4	10.3
	27年度	524	27.4	38.2	34.3	▲ 6.9	1.4	
	26年度	519	26.4	38.9	34.7	▲ 8.3	1.7	
	25年度	557	25.9	38.2	35.9	▲ 10.0	2.9	
	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	3.9	
	23年度	595	22.2	38.8	39.0	▲ 16.8	—	
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり	28年度	453	30.2	44.8	24.9	5.3	▲ 3.2	▲ 13.0
	27年度	540	33.1	42.2	24.6	8.5	▲ 2.4	
	26年度	557	33.3	44.3	22.4	10.9	▲ 7.5	
	25年度	581	38.9	40.6	20.5	18.4	2.5	
	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	▲ 2.4	
	23年度	609	38.0	42.4	19.7	18.3	—	

【参考】重点プログラム4の取り組みの方向性の状況 (H28-23年度比較)



(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」とともにマイナスとなっている。特に「現在について」はマイナスが大きく、前年度調査からの変化も見られなかった。3カ年の DI は、全ての取り組みの方向性の中で最も低く、依然として実感が得られていない状況が続いている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
▲ 35.0 → ▲ 32.5 → ▲ 33.2	▲ 0.7 変化なし	▲ 8.3 → ▲ 6.9 → ▲ 6.5	0.4 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が最も多く挙げられ、特に「イベントの開催」「軍港めぐり」などについての記載が見られた。ほかに、市の施策の充実として「地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ」「企業誘致」などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出」「企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退」など雇用情勢等の厳しさや産業の衰退のほか、横須賀中央など中心市街地のにぎわいのなさや、商業を中心とした地域経済の衰退も多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、観光事業や市の施策の充実が多く挙げられ、イベントや地産地消等に対する印象がよいことがうかがえる。また、企業誘致に関する記載も多く見られた。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

企業の減少や産業の衰退について最も多く挙げられたほか、商業を中心とした地域経済の衰退、雇用の減少、中心市街地のにぎわいのなさなど、多寡はあるものの「現在について」と同様の理由が多く挙げられている。

(回答理由分類については P33 参照)

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

今回調査のDIは、「現在について」でマイナスとなったが、「以前との比較」ではプラス値を維持している。「現在について」では前年度調査からポイントが低下しており、現状に対して実感が得られているとはいえない状況である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
▲ 15.2 → ▲ 11.9 → ▲ 20.7	▲ 8.8 低下	10.9 → 8.5 → 5.3	▲ 3.2 大きな変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

4-1と同様に、「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が突出して多く挙げられている。ほかに、メディアへの露出の増加など「PRの向上」が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出」が最も多く挙げられているほか、「魅力的な商業施設がない、買い物客等の市外流出」「魅力的な観光資源・施設が少ない」が多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

「現在について」と同様に、「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が多く挙げられたほか、メディアへの露出の増加など「PRの向上」が多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出」が多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP35参照)

2 回答理由分類

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	22	36.7
イベントの開催	(9)	
軍港めぐり	(4)	
海軍カレー	(3)	
施策の充実	11	18.3
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(7)	
企業誘致	(3)	
雇用の増加	6	10.0
地域経済の活性化、商業施設、大型商業施設の増加	5	8.3
横須賀中央や平成町などの開発	2	3.3
その他、意見等	11	18.3
否定的な回答理由	3	5.0
	60	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出	32	28.8
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退	19	17.1
地域経済が活性化していない	11	9.9
商店街に活気がない、空き店舗の増加	9	8.1
施策が不十分、特色や面白みがない	7	6.3
企業誘致、産業の創出	(2)	
中小企業への支援	(2)	
中心市街地ににぎわいや活気を感じない	6	5.4
人口減少・人口流出	6	5.4
地域差がある	5	4.5
交通利便性が低い、渋滞	4	3.6
観光業が弱い	3	2.7
その他、意見等	9	8.1
	111	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	22	33.3
イベントの開催	(6)	
施策の充実	16	24.2
企業誘致	(8)	
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(7)	
努力が見える	7	10.6
雇用の増加	5	7.6
地域経済の活性化、商業施設の増加	5	7.6
テレビなどメディアで取り上げられる、知名度の上昇	2	3.0
その他、意見等	5	7.6
否定的な回答理由	4	6.1
	66	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
企業が少ない、企業・工場の撤退、産業の衰退	20	21.1
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	17	17.9
雇用の減少、求人が少ない、労働力人口の流出、低賃金	13	13.7
人口減少・人口流出	11	11.6
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、開発が進まない	8	8.4
経済が活性化していない、悪化	6	6.3
大型商業施設の減少、買い物客の市外流出	4	4.2
施策が不十分	3	3.2
雇用対策、企業誘致	(2)	
その他、意見等	13	13.7
	95	100

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	24	23.3
イベントの開催	(10)	
軍港めぐり	(4)	
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	10	9.7
マンション・住宅地の増加	9	8.7
施策の充実	8	7.8
谷戸・空き家対策	(3)	
観光・レジャーができる自然・施設・名所がある	6	5.8
大型商業施設の増加、商業施設の充実	4	3.9
市の努力が見える	4	3.9
他都市・企業との連携が進んでいる	4	3.9
住みやすい	3	2.9
都市部に近い、交通利便性が高い	2	1.9
その他、意見等	23	22.3
否定的な回答理由	6	5.8
	103	96

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	18	10.7
魅力を感じない	17	10.1
他都市と比較して魅力がない・劣る	(2)	
定住を促す魅力的な要素がない	(3)	
魅力的な商業施設がない、買い物客等の市外流出	13	7.7
魅力的な観光資源・施設が少ない	13	7.7
階段・坂が多い、道路整備が不十分、交通利便性が低い	12	7.1
公共交通が不便	(3)	
施策が不十分、新しさが無い	8	4.7
集客、観光などの施策が不十分	(2)	
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	8	4.7
雇用・企業の減少	8	4.7
中心市街地に活気がない	8	4.7
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	7	4.1
変化を感じない、後退している	7	4.1
地域差がある、一部地域しか開発・環境整備されない	5	3.0
空き家が多い	5	3.0
基地の存在、マイナスイメージ	5	3.0
生活利便性が低い	4	2.4
PR不足	4	2.4
税金が高い、物価が高い	4	2.4
その他、意見等	21	12.4
肯定的な回答理由	2	1.2
	169	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	16	20.5
イベントの開催	(5)	
施策の充実	9	11.5
谷戸・空き家対策	(5)	
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	7	9.0
市の努力が見える	6	7.7
観光・レジャーができる施設の増加	5	6.4
道路整備、交通利便性の向上	4	5.1
マンション、住宅地の開発が進んでいる	4	5.1
住みやすい	4	5.1
新港周辺、海岸沿いの整備	3	3.8
大型商業施設の増加	2	2.6
その他、意見等	14	17.9
否定的な回答理由	4	5.1
	78	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	12	18.8
中心市街地に活気がない	4	6.3
大型商業施設の減少、魅力的な商業施設がない	5	7.8
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	4	6.3
施策が不十分	8	12.5
定住施策が不十分	(2)	
地域差がある、一部地域しか開発・環境整備されない	3	4.7
雇用・企業の減少	4	6.3
道路整備が不十分、交通利便性が低い	2	3.1
空き家が多い	4	6.3
魅力がない	3	4.7
その他、意見等	15	23.4
	64	100

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・

地域を支えるコミュニティー機能の強化～

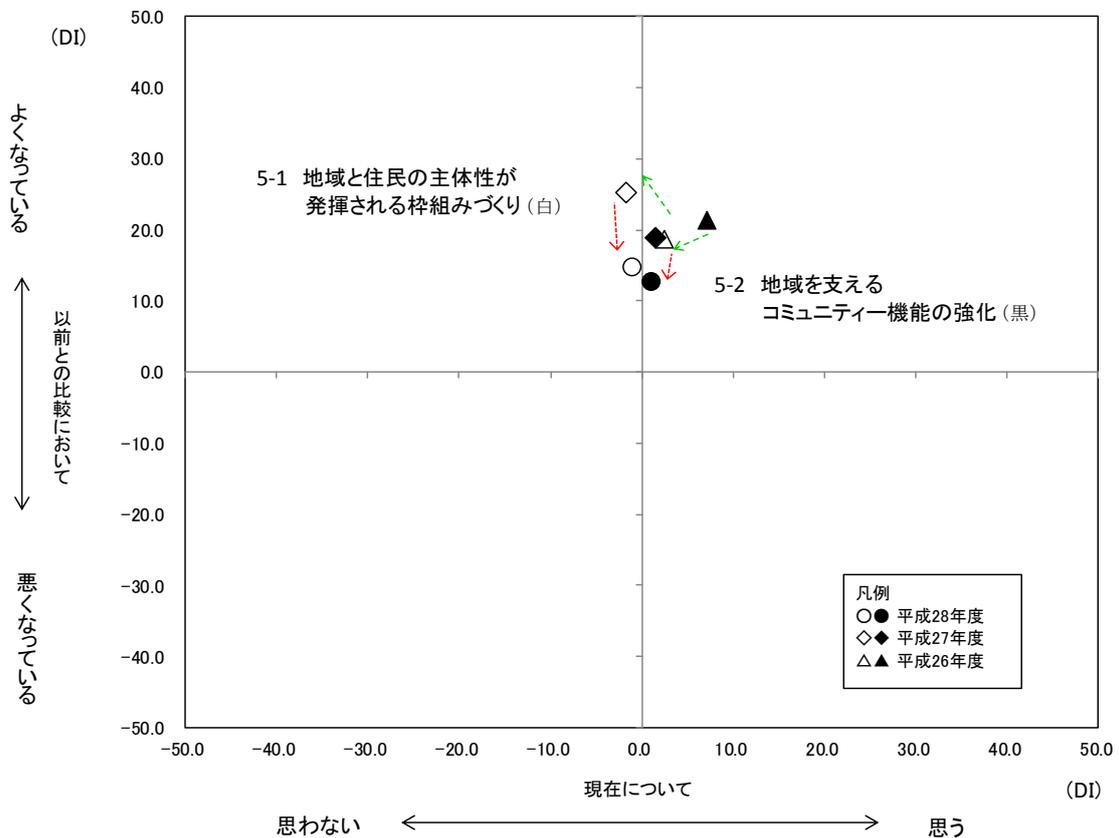
(設問)

5-1 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

5-2 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティー機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-5 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況 (H28-26年度比較)



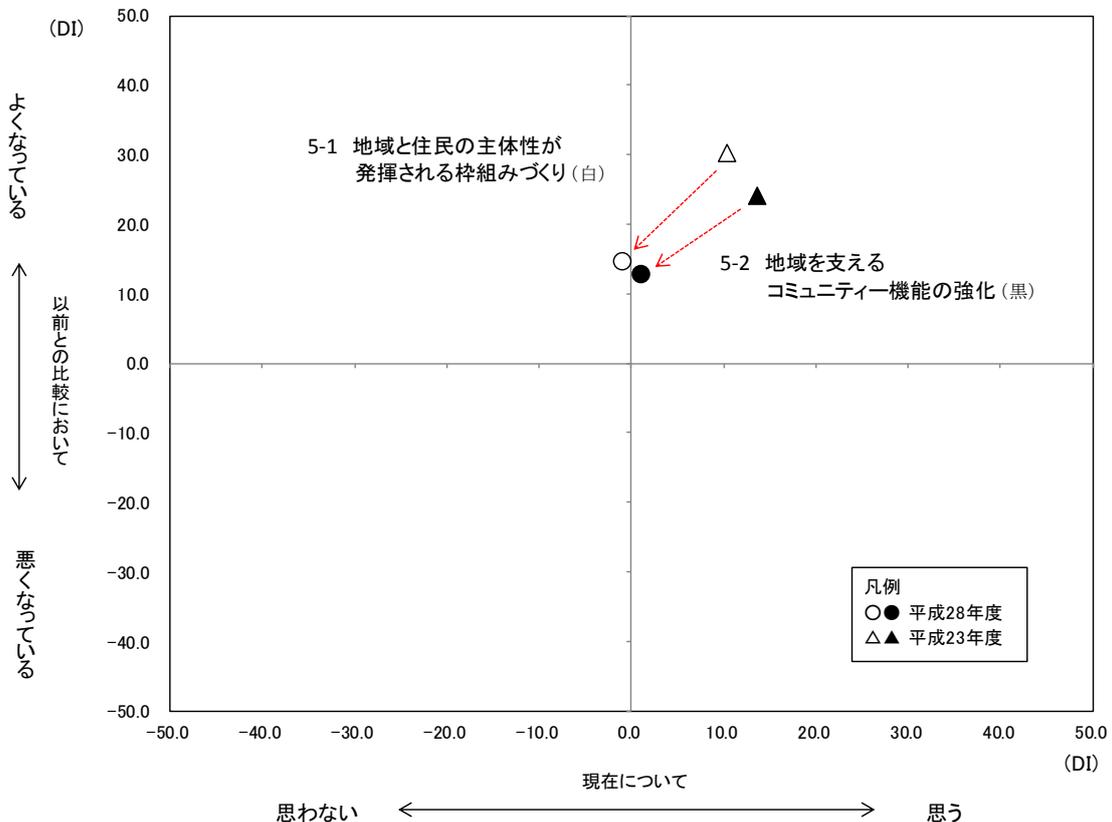
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	28年度	411	33.6	31.9	34.5	▲ 0.9	0.8	▲ 11.2
	27年度	501	34.7	28.9	36.4	▲ 1.7	▲ 4.2	
	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	▲ 11.4	
	25年度	578	41.9	30.1	28.0	13.9	3.8	
	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2	
	23年度	599	40.8	28.7	30.5	10.3	—	
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	28年度	430	34.2	32.8	33.0	1.2	▲ 0.3	▲ 12.4
	27年度	541	37.4	26.8	35.9	1.5	▲ 5.7	
	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	▲ 9.7	
	25年度	591	44.0	28.9	27.1	16.9	9.8	
	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5	
	23年度	630	42.0	29.5	28.4	13.6	—	

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)					
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	28年度	351	28.2	58.1	13.7	14.5	▲ 10.9	▲ 15.7
	27年度	410	36.4	52.7	11.0	25.4	6.7	
	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	▲ 9.9	
	25年度	502	38.0	52.6	9.4	28.6	▲ 0.6	
	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0	
	23年度	516	39.1	51.9	8.9	30.2	—	
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	28年度	358	29.1	54.5	16.5	12.6	▲ 6.3	▲ 11.6
	27年度	451	34.4	50.1	15.5	18.9	▲ 2.5	
	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	▲ 9.2	
	25年度	498	41.4	47.8	10.8	30.6	2.1	
	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3	
	23年度	536	36.2	51.9	12.0	24.2	—	

【参考】 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況 (H28-23年度比較)



(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

今回調査の DI は、「現在について」でマイナスとなったが「以前との比較」ではプラス値を維持した。ただし、「以前との比較」においても前年度調査からポイントが大幅に低下しており、今後の動向に留意が必要である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
2.5 → ▲ 1.7 → ▲ 0.9	0.8 変化なし	18.7 → 25.4 → 14.5	▲ 10.9 大幅に 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く、自由記述回答者の中での割合も5割を超えている。特に「子ども見守り隊」についての記載が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「活動しているのは一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い」「具体的な取り組みが見えない」などの回答が多く見られるほか、「高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない」といった少子高齢化に伴う影響がうかがえる回答が見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足」といった少子高齢化に関する回答が見られる。

(回答理由分類については P41 参照)

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスとなっているが、「現在について」の値は小さく、前年度調査との比較でも低下が見られた。また、「以前との比較」についても前年度調査からポイントが低下しており、今後の動向に留意が必要である。

現在について				以前との比較							
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)			年度差と状況 (対27年度)				
7.2	→	1.5	→	1.2	▲ 0.3	21.4	→	18.9	→	12.6	▲ 6.3
				変化なし					低下		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

5-1と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く挙げられている。ほかに、「コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座等の開催」など、活動の場についての回答や、活動参加者の増加などについての回答が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差」「地域の間関係が希薄、関わりがない」など、人口減少、少子高齢化等に伴う影響や、地域の間関係の希薄化がうかがえる回答が多く見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が最も多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「現在について」と同様に、人口減少、少子高齢化等に伴う影響や、地域の間関係の希薄化がうかがえる回答が挙げられている。

(回答理由分類についてはP43参照)

2 回答理由分類

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	51	56.0
子ども見守り隊	(13)	
クリーン活動	(5)	
住民の連携がよい、地域の間関係がよい	10	11.0
自主的に取り組んでいる、市民・地域が努力している	8	8.8
地域のイベントがある	5	5.5
市と地域の連携	2	2.2
行政の対応がよい、努力が見える	2	2.2
その他、意見等	10	11.0
否定的な回答理由	3	3.3
	91	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
活動しているのは一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い	15	18.5
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	14	17.3
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	8	9.9
市民の声が市政に反映されない、どう反映されているか分からない	5	6.2
地域の間関係が希薄、無関心、他人任せ	5	6.2
活動を知らない・伝わってこない、知らないから参加できない	4	4.9
施策が不十分	4	4.9
活性化しない、前例踏襲で活動内容に変化がない	3	3.7
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民の立場が弱い	2	2.5
その他、意見等	21	25.9
	81	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	19	43.2
子ども見守り隊	(4)	
クリーン活動	(2)	
住民の連携がよい、コミュニケーションの増加	8	18.2
施策の充実	3	6.8
地域のイベントがある	3	6.8
市民意識の向上	2	4.5
その他、意見等	9	20.5
	44	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	9	27.3
町内会加入者の減少、地域活動参加者の減少	5	15.2
地域の間関係が希薄、他人任せ	4	12.1
地域のイベントの縮小	3	9.1
その他、意見等	12	36.4
	33	100

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	23	29.1
子ども見守り隊	(2)	
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	13	16.5
住民の連携がよい、地域の間関係がよい、ネットワークがある	11	13.9
地域に参加する人の増加、活動の増加、高齢者の活躍	6	7.6
地域のイベントがある	5	6.3
施策の充実	5	6.3
自主的に取り組んでいる、地域住民が努力している	3	3.8
情報発信の充実（回覧板等）	2	2.5
その他、意見等	9	11.4
否定的な回答理由	2	2.5
	79	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	13	16.3
地域の間関係が希薄、関わりがない	13	16.3
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	11	13.8
活動を知らない、伝わってこない、参加する方法が分からない	10	12.5
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	9	11.3
一部の人のみが活動している	6	7.5
地域住民の調和がない、新住民を受け入れない	4	5.0
施策が不十分	3	3.8
コミュニティの場がない	2	2.5
その他、意見等	9	11.3
	80	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	14	42.4
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	5	15.2
施策の充実	3	9.1
住民の連携がよい、地域の間人間関係がよい、ネットワークがある	3	9.1
その他、意見等	8	24.2
	33	100

「④どちらかというよ悪くなっている」「⑤悪くなっている」

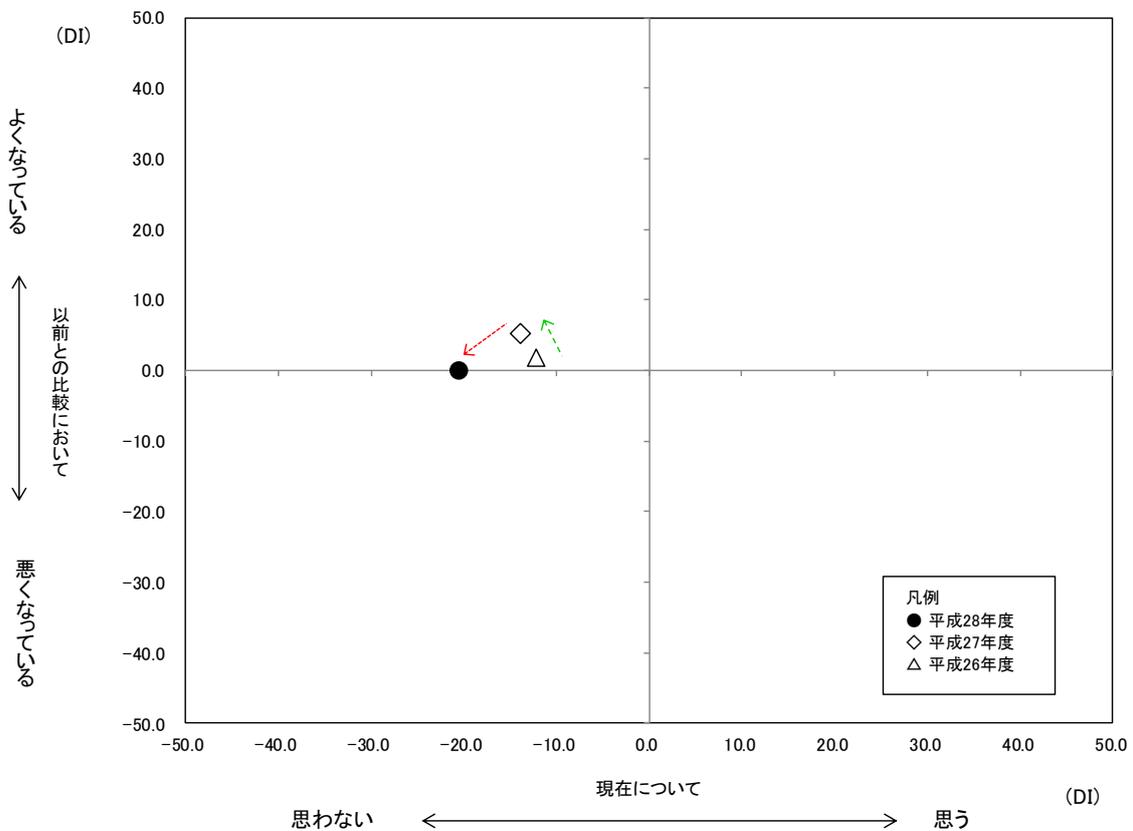
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	14	35.9
地域の間人間関係が希薄、関わりがない	6	15.4
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	5	12.8
コミュニティセンター等施設を利用しにくい	2	5.1
その他、意見等	12	30.8
	39	100

III 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について

重点プログラムの狙いである「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための都市力（都市の魅力）を備えているまち」に対しての実感を尋ねた。

1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向

図表Ⅲ-1 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H28-26年度比較）



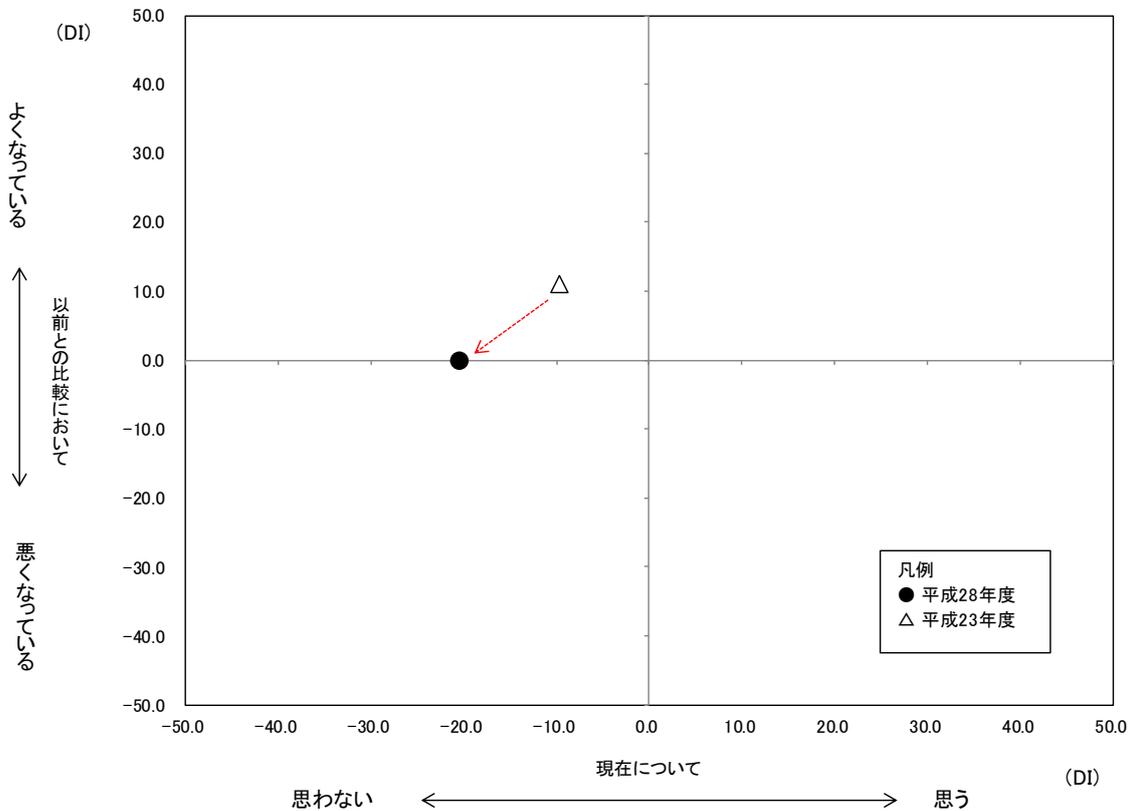
【現在について】

調査年度	件数(人)	(%)					(ポイント)				
		①思う	②やや思う	③どちらともいえない	④あまり思わない	⑤思わない	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
28年度	514	8.2	18.7	25.9	30.5	16.7	26.9	47.2	▲ 20.3	▲ 6.5	▲ 10.7
27年度	631	12.8	18.4	23.8	27.4	17.6	31.2	45.0	▲ 13.8	▲ 1.6	
26年度	616	11.5	19.5	25.8	27.8	15.4	31.0	43.2	▲ 12.2	▲ 2.9	
25年度	630	11.1	20.3	27.8	24.4	16.3	31.4	40.7	▲ 9.3	3.8	
24年度	671	11.2	19.2	26.1	26.2	17.3	30.4	43.5	▲ 13.1	▲ 3.5	
23年度	676	12.1	19.4	27.4	24.4	16.7	31.5	41.1	▲ 9.6	—	

【以前との比較】

調査年度	件数(人)	(%)					(ポイント)				
		①よくなっている	②どちらかというよくなっている	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている	⑤悪くなっている	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比
28年度	426	3.8	24.6	43.0	17.8	10.8	28.4	28.6	▲ 0.2	▲ 5.4	▲ 11.2
27年度	536	4.9	24.1	47.2	13.4	10.4	29.0	23.8	5.2	3.3	
26年度	530	5.3	22.5	46.4	15.5	10.4	27.8	25.9	1.9	▲ 5.1	
25年度	550	7.3	23.3	45.8	14.9	8.7	30.6	23.6	7.0	▲ 0.2	
24年度	561	6.4	23.5	47.4	14.1	8.6	29.9	22.7	7.2	▲ 3.8	
23年度	578	8.0	23.4	48.3	11.9	8.5	31.4	20.4	11.0	—	

【参考】 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H28-23年度比較）



今回調査のDIは、「現在について」で約20ポイントのマイナス値となっている。また、「以前との比較」についても今回調査でマイナスに転じた。特に「現在について」は3カ年を通じてDIが低下傾向となっており、実感が得られているとはいえない状況である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)	DIの推移 (26年度 → 27年度 → 28年度)	年度差と状況 (対27年度)
▲ 12.2 → ▲ 13.8 → ▲ 20.3	▲ 6.5 低下	1.9 → 5.2 → ▲ 0.2	▲ 5.4 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「豊かな自然環境、温暖な気候」が最も多く挙げられている。ほかに、都市としての魅力の多さや都心へのアクセスの良さなど、都心にありながら豊かな自然を感じられるまちの魅力に関する回答が多く挙げられている。これらの上位項目は、多寡の差はあるものの、前年度調査とほぼ同様の項目である。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「他都市と比較して劣る」「若年層にとって魅力がない」などの回答が多く挙げられた。市内外の結婚世代から「住むまち」として選んでもらうための取り組みを打ち出している中で、ターゲット層にとっての魅力のなさを指摘する回答も見られた。ほかに、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出」「雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」などが多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

市の施策の充実に対する回答が多く挙げられ、中でも集客・観光に関するもの記載が多く見られた。ほかに「生活利便性の向上、施設の充実」などが挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出」が最も多く挙げられているほか、「現在について」と同様に、「雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」や「商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出」などが多く挙げられている。

2 回答理由分類

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
豊かな自然環境、温暖な気候	17	17.2
多くの魅力を備えている、可能性がある	13	13.1
都市部に近い、交通利便性が高い	12	12.1
生活利便性が高い、環境がよい、住みやすい	7	7.1
他にはない魅力を活用した集客、観光資源が豊富、知名度がある	7	7.1
基地の存在、国際交流	6	6.1
施策の充実	5	5.1
福祉施策	(2)	
開発・転入者の増加、子育て世帯や子どもの増加、転出の抑制	4	4.0
地域活動が盛ん、住民の力が発揮できる場がある	3	3.0
歴史、豊富な文化資産	2	2.0
その他、意見等	20	20.2
否定的な回答理由	3	3.0
	99	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
魅力がない、中途半端	32	19.5
他都市と比較して劣る	(7)	
若年層・子育て世代にとって魅力がない	(5)	
市外の人にとって住みたいと思えるほどの魅力がない	(4)	
横須賀を代表するもの、特色がない	(3)	
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	20	12.2
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	18	11.0
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	18	11.0
都市力を備えていない、成長がない、持続可能性がない、衰退	11	6.7
施策が不十分、遅れている、施策に特色がない	11	6.7
出産・子育て施策や助成が不十分	(4)	
教育環境が不十分	(2)	
交通利便性が低い、車がないと不便、道が狭い、坂が多い	10	6.1
都市部まで遠い	(2)	
PR、情報発信不足	6	3.7
成長する必要があると思わない	5	3.0
中心市街地やまちに活気がない	4	2.4
地理的条件が悪い、陸の孤島	3	1.8
生活利便性が低い、市内で用が足せない、不便	2	1.2
行政の努力不足	2	1.2
その他、意見等	22	13.4
	164	100

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	20	36.4
集客・観光事業の充実、観光スポットの増加、観光客の増加	(5)	
子育て施策	(3)	
生活利便性の向上、施設の充実	7	12.7
魅力が増した、イメージの向上	5	9.1
テレビなどメディアで取り上げられる、PRの向上、知名度の上昇	3	5.5
若年層、転入者の増加	2	3.6
その他、意見等	16	29.1
否定的な回答理由	2	3.6
	55	100

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	18	25.7
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	15	21.4
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	9	12.9
中心市街地やまちに活気がない	7	10.0
施策が不十分、特色がない	5	7.1
魅力がない	4	5.7
交通利便性が低い	2	2.9
その他、意見等	10	14.3
	70	100

IV 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）

－ 優先して取り組むべき政策について －

「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきか」について、重点プログラムを構成する10項目の取り組みの方向性と「その他」の選択肢を設け尋ねた。

（複数回答3つまで）

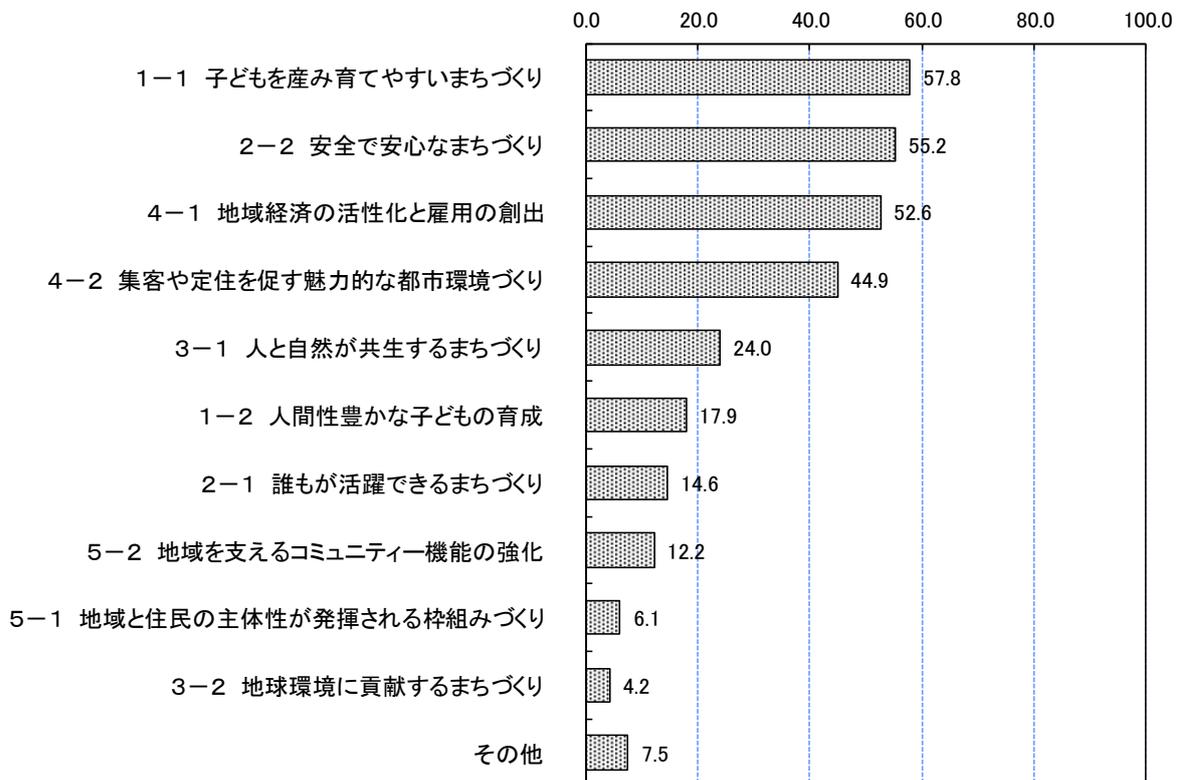
1 優先して取り組むべき政策の傾向

（1）平成28年度調査結果

- ・「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の回答割合が最も高く（57.8%）、次いで「2－2 安全で安心なまちづくり」（55.2%）、「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」（52.6%）、が選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択されている。「2－2 安全で安心なまちづくり」「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」も、1番目の項目として同様の順位傾向となっているが、この2項目の回答割合に差は見られない。

図表IV－1 「優先して取り組むべき政策」（n=574）

（%）



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表Ⅳ－２ 「優先して取り組むべき政策」（選択順位別）

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム1	(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	332	57.8	224	39.0	53	9.3	55	9.8
	(1-2)人間性豊かな子どもの育成	103	17.9	30	5.2	47	8.3	26	4.6
プログラム2	(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	84	14.6	23	4.0	35	6.2	26	4.6
	(2-2)安全で安心なまちづくり	317	55.2	116	20.2	134	23.6	67	11.9
プログラム3	(3-1)人と自然が共生するまちづくり	138	24.0	20	3.5	57	10.0	61	10.8
	(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	24	4.2	2	0.3	10	1.8	12	2.1
プログラム4	(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	302	52.6	104	18.1	112	19.7	86	15.2
	(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	258	44.9	44	7.7	96	16.9	118	20.9
プログラム5	(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	35	6.1	3	0.5	10	1.8	22	3.9
	(5-2)地域を支えるコミュニティ機能の強化	70	12.2	2	0.3	10	1.8	58	10.3
その他		43	7.5	6	1.0	4	0.7	33	5.9
回答数(n)				574	100	568	100	564	100

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(2) 平成28年度－26年度調査結果

- ・平成26年度調査以降、全体的な回答割合の傾向に大きな差は見られない。
- ・前年度調査と比較して、2位の「2-2 安全で安心なまちづくり」と、3位の「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」のほか、7位と8位、9位と10位がそれぞれ逆転している。

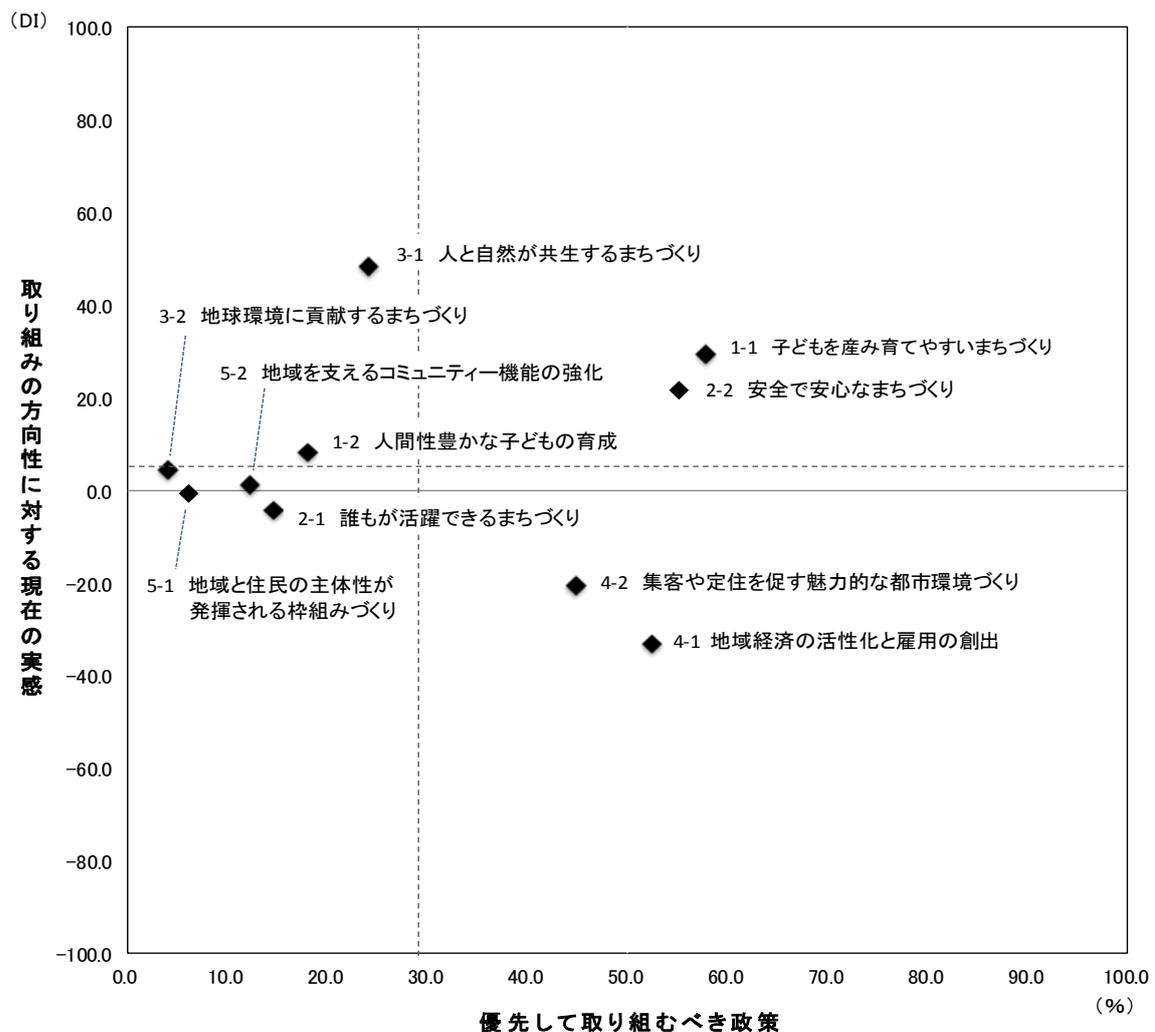
図表Ⅳ－３ 「優先して取り組むべき政策」の回答割合(H28-26年度比較)

取り組みの方向性	28年度(n=574)		27年度(n=697)		26年度(n=719)		28-27年度比	27-26年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	1	57.8	1	60.1	1	61.6	▲ 2.3	▲ 1.5
(2-2) 安全で安心なまちづくり	2	55.2	3	50.8	2	55.1	4.4	▲ 4.3
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	3	52.6	2	50.9	3	49.0	1.7	1.9
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	44.9	4	46.9	4	42.8	▲ 2.0	4.1
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	24.0	5	20.5	5	24.3	3.5	▲ 3.8
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	17.9	6	17.2	6	16.3	0.7	0.9
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	7	14.6	8	12.6	8	11.1	2.0	1.5
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	8	12.2	7	13.2	7	15.3	▲ 1.0	▲ 2.1
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	9	6.1	10	5.7	10	5.8	0.4	▲ 0.1
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	10	4.2	9	6.0	9	6.3	▲ 1.8	▲ 0.3
その他	—	7.5	—	9.2	—	7.5	▲ 1.7	1.7

2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感

- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」のDIが平均値より低い項目は、プログラム4を構成する取り組みの方向性の2つとなった。
- ・プログラム1を構成する取り組みの方向性のうち、「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」は「現在の実感」のDIが全体で2番目に高いが、「優先して取り組むべき政策」の回答割合も全政策の中で最も高い。「1-2 人間性豊かな子どもの育成」は「現在の実感」のDIは平均値に近いが、優先度は平均値を下回っている。
- ・プログラム2を構成する取り組みの方向性では、「2-2 安全で安心なまちづくり」は「現在の実感」のDIが平均値を上回り優先度も2番目に高いが、「2-1 誰もが活躍するまちづくり」はいずれも平均値を下回っている。
- ・プログラム3とプログラム5を構成する取り組みの方向性は、いずれも「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低くなっている。

図表Ⅳ-4 優先して取り組むべき政策×現在の実感（H28年度）



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感 (DI)」それぞれの平均値を示したもの (X=28.4 Y=4.1)

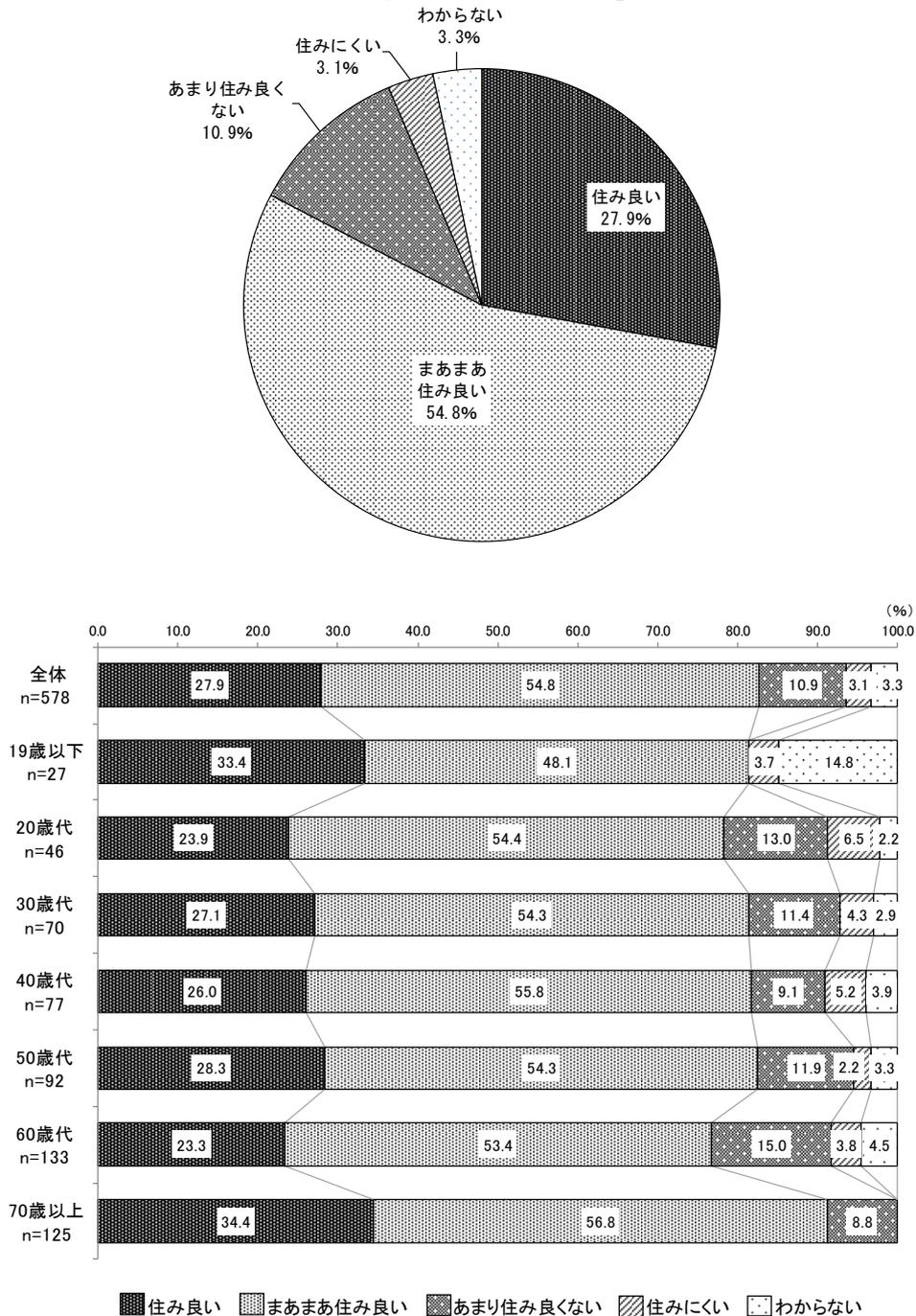
平均値の推移： 25年度 (X=29.0 Y=11.3) 26年度 (X=28.5 Y=3.5)

V 横須賀市の住み良さや定住意識について

1 横須賀市の住み良さについて

「住み良い」(27.9%)、「まあまあ住み良い」(54.8%)を合わせると、回答者の82.7%に上り、多くの回答者が住み良さを実感している状況がうかがえる。

図表V-1 「横須賀市の住み良さ」(n=578)



図表 V - 2 「横須賀市の住み良さ」(H28-26 年度)

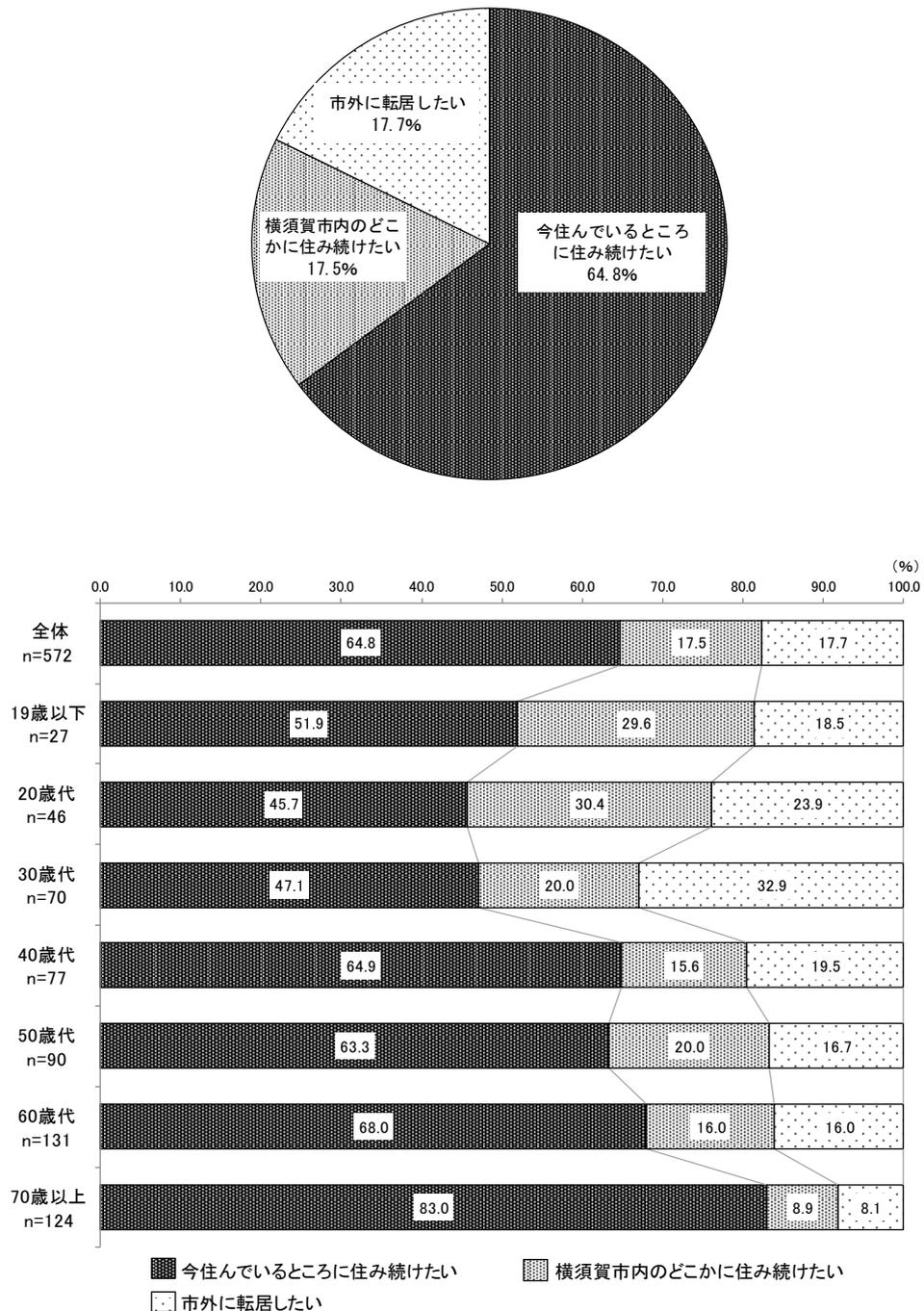
調査年度	件数(人)	(%)						
		①住み良い	②まあまあ 住み良い	③あまり住み よくない	④住みにくい	⑤わからない	①+②	③+④
28年度	578	27.9	54.8	10.9	3.1	3.3	82.7	14.0
27年度	705	30.8	52.8	10.1	3.4	2.9	83.6	13.5
26年度	716	26.1	60.5	8.1	2.8	2.5	86.6	10.9

2 横須賀市への定住意識について

(1) 横須賀市への定住意識

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」(64.8%)、「横須賀市内のどこかに住み続けたい」(17.5%)を合わせると、回答者の82.3%に上り、定住意識の高さがうかがえる。なお、前年度調査から全体的な回答傾向に変化はみられない。

図表V-3 「横須賀市への定住意識」(n=572)



図表 V-4 「横須賀市への定住意識」(H28-26 年度)

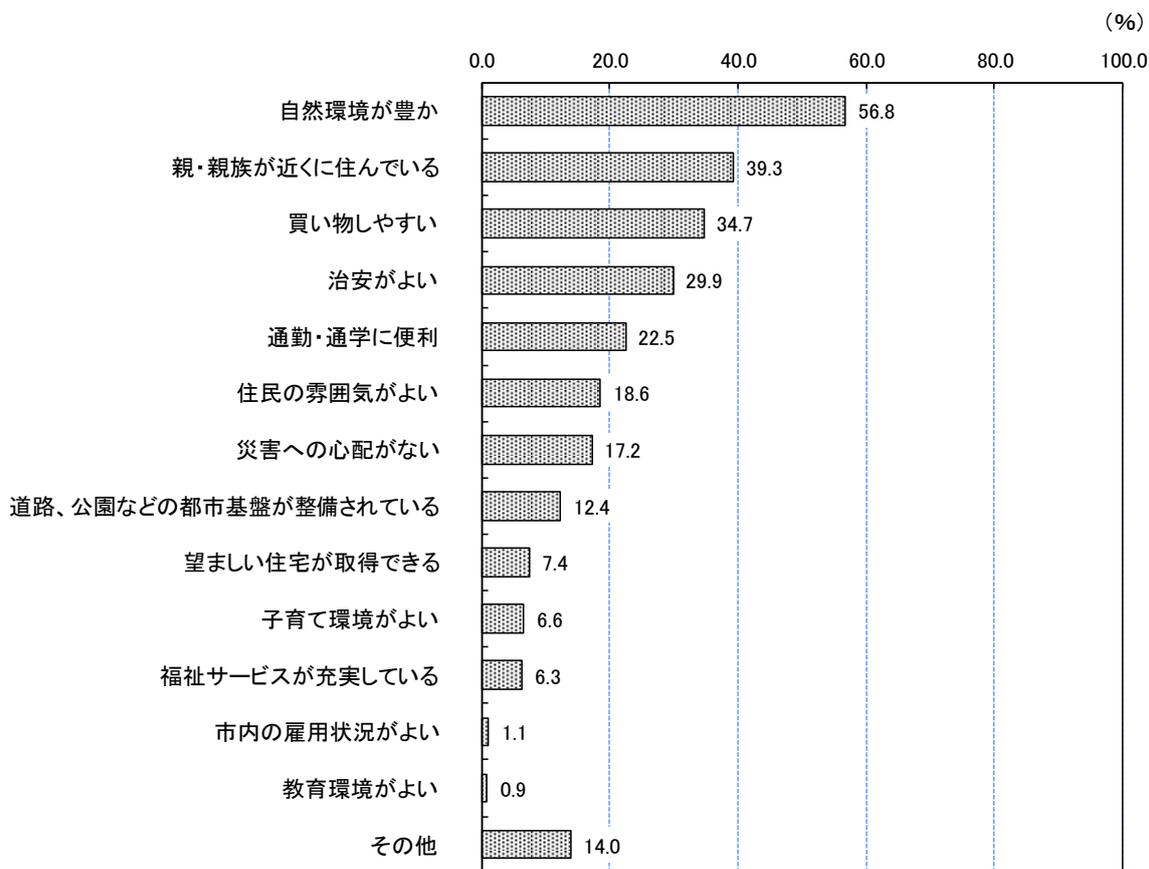
調査年度	件数(人)				(%)
		①今住んでいるところに住み続けたい	②横須賀市内のどこかに住み続けたい	③市外に転居したい	①+②
28年度	572	64.8	17.5	17.7	82.3
27年度	701	63.5	18.5	18.0	82.0
26年度	712	63.1	20.8	16.2	83.9

(2) 市内に住み続けたい理由

※「①今住んでいるところに住み続けたい」「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」を選択した回答者のみ

- ・「自然環境が豊か」(56.8%) が最も多く選択されており、次いで、「親・親族が近くに住んでいる」(39.3%)、「買い物しやすい」(34.7%)、が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目、2番目の項目ともに「自然環境が豊か」が最も多く選択されている。

図表 V-5 「市内に住み続けたい理由」(n=458)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表V-6 「市内に住み続けたい理由」(選択順位別)

市内に住み続けたい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
自然環境が豊か	260	56.8	129	28.2	89	21.7	42	11.7
親・親族が近くに住んでいる	180	39.3	66	14.4	42	10.2	72	20.0
買い物しやすい	159	34.7	29	6.3	73	17.8	57	15.8
治安がよい	137	29.9	77	16.8	32	7.8	28	7.8
通勤・通学に便利	103	22.5	38	8.3	33	8.0	32	8.9
住民の雰囲気がい	85	18.6	10	2.2	36	8.8	39	10.8
災害への心配がない	79	17.2	30	6.6	34	8.3	15	4.2
道路、公園などの都市基盤が整備されている	57	12.4	10	2.2	24	5.8	23	6.4
望ましい住宅が取得できる	34	7.4	9	2.0	14	3.4	11	3.1
子育て環境がよい	30	6.6	13	2.8	11	2.7	6	1.7
福祉サービスが充実している	29	6.3	18	3.9	4	1.0	7	1.9
市内の雇用状況がよい	5	1.1	2	0.4	1	0.2	2	0.6
教育環境がよい	4	0.9	2	0.4	0	0.0	2	0.6
その他	64	14.0	25	5.5	16	4.4	23	6.7
回答数(n)			458	100	409	100	359	100

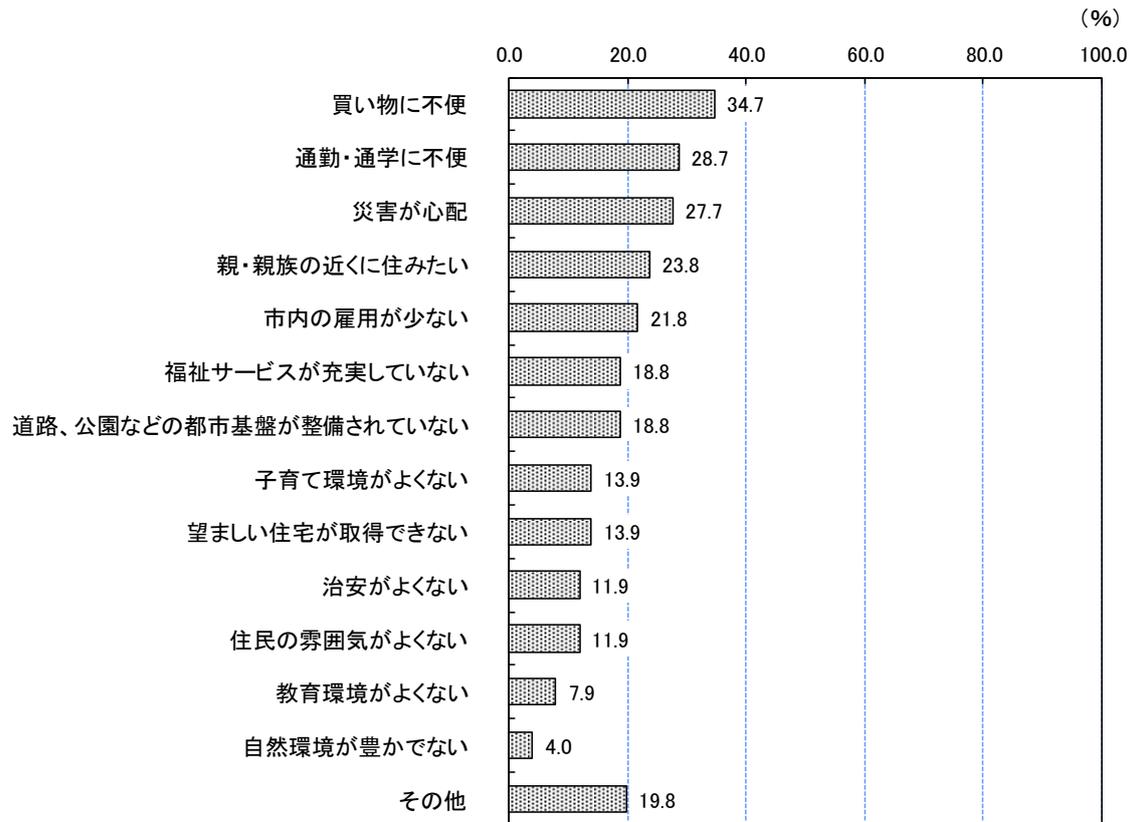
※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(3) 市外に転居したい理由

※「③市外に転居したい」(P55)を選択した回答者のみ

- ・「買い物に不便」(34.7%)が最も多く選択されており、次いで、「通勤・通学に不便」(28.7%)、「災害が心配」(27.7%)が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目、2番目の項目ともに「買い物に不便」が最も多く選択されている。
- ・「通勤・通学に不便」は1～3番目全てにおいて上位3つまでで選択されている。

図表 V-7 「市外に転居したい理由」(n=101)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 V-8 「市外に転居したい理由」(選択順位別)

市外に転居したい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
買い物に不便	35	34.7	13	12.9	16	18.6	6	8.2
通勤・通学に不便	29	28.7	12	11.9	10	11.6	7	9.6
災害が心配	28	27.7	13	12.9	9	10.5	6	8.2
親・親族の近くに住みたい	24	23.8	9	8.9	7	8.1	8	11.0
市内の雇用が少ない	22	21.8	8	7.9	7	8.1	7	9.6
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	19	18.8	6	5.9	10	11.6	3	4.1
福祉サービスが充実していない	19	18.8	9	8.9	5	5.8	5	6.8
子育て環境がよくない	14	13.9	8	7.9	3	3.5	3	4.1
望ましい住宅が取得できない	14	13.9	4	4.0	4	4.7	6	8.2
住民の雰囲気がよくない	12	11.9	2	2.0	3	3.5	7	9.6
治安がよくない	12	11.9	6	5.9	3	3.5	3	4.1
教育環境がよくない	8	7.9	2	2.0	3	3.5	3	4.1
自然環境が豊かでない	4	4.0	1	1.0	1	1.2	2	2.7
その他	20	19.8	8	7.9	5	5.8	7	9.6
回答数(n)			101	100	86	100	73	100

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

VI 健康づくりについて

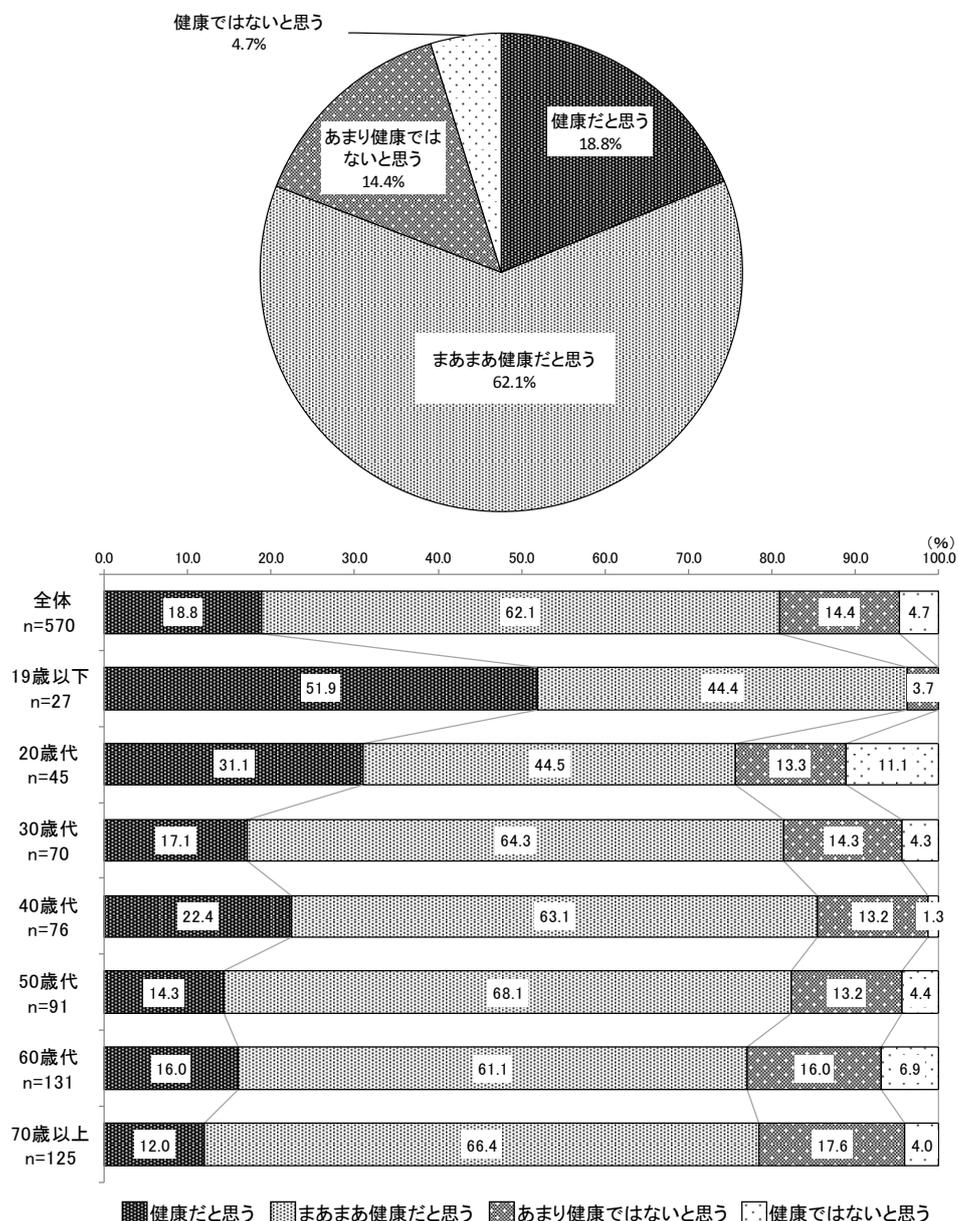
少子高齢化が進む中、多くの市民がいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指すに当たり、自身の健康づくりに対する状況を尋ねた。

1 健康状態について 【平成26年度新規設問（隔年実施）】

「健康だと思う」（18.8%）、「まあまあ健康だと思う」（62.1%）を合わせると、回答者の約8割に上り、多くの回答者が比較的健康的だと感じている状況がうかがえる。

なお、平成26年度の前回調査から全体的な回答傾向に変化はみられない。

図表VI-1 「健康状態」（n=570）



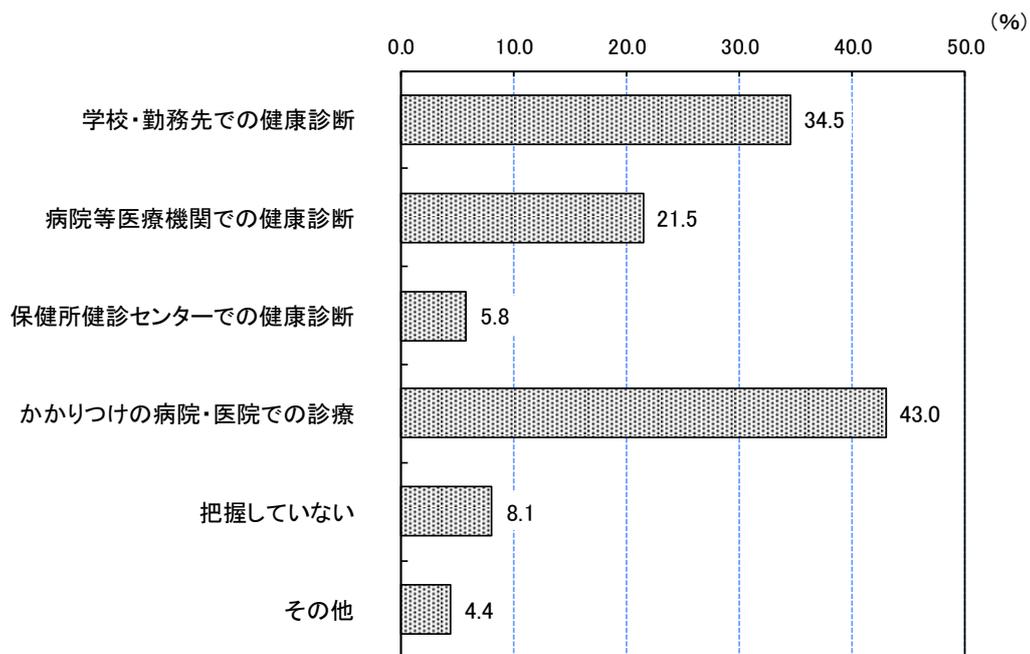
図表VI-2 「健康状態」(H28、H26年度)

調査年度	件数(人)	(%)					
		①健康だと思う	②まあまあ健康だと思う	③あまり健康ではないと思う	④健康ではないと思う	①+②	③+④
28年度	569	18.8	62.1	14.4	4.7	80.9	19.1
26年度	718	21.9	57.6	16.3	4.2	79.5	20.5

2 健康状態の把握手段について

「かかりつけの病院・医院での診療」が43.0%で最も多く、次いで「学校・勤務先での健康診断」が34.5%となっている。その他の健康診断（病院等医療機関と保健所健診センター）の利用者は合わせて27.3%となった。健康状態を把握していない回答者は8.1%となった。

図表VI-3 「健康状態の把握手段」(n=568)



※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は100%にならない

図表VI-4 「健康状態の把握手段」(H28-26年度)

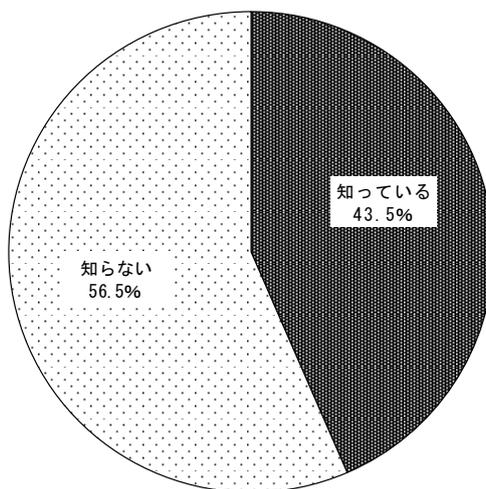
調査年度	件数(人)	(%)						
		①学校・勤務先での健康診断	②病院等医療機関での健康診断	③保健所健診センターでの健康診断	④かかりつけの病院・医院での診療	⑤把握していない	⑥その他	①+②+③
28年度	568	34.5	21.5	5.8	43.0	8.1	4.4	61.8
27年度	699	37.2	20.6	8.7	36.8	8.3	4.3	66.5
26年度	714	30.7	19.0	5.3	30.4	9.1	5.5	55.0

※平成26年度は複数選択可としていないため、単純な比較はできない

3 ラジオ体操の実施の認知度について 【平成 27 年度新規設問】

市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操を実施していることを「知っている」回答者は、前年度（32.9%）を上回り、43.5%となった。

図表VI-5 「ラジオ体操の実施の認知度」(n=570)



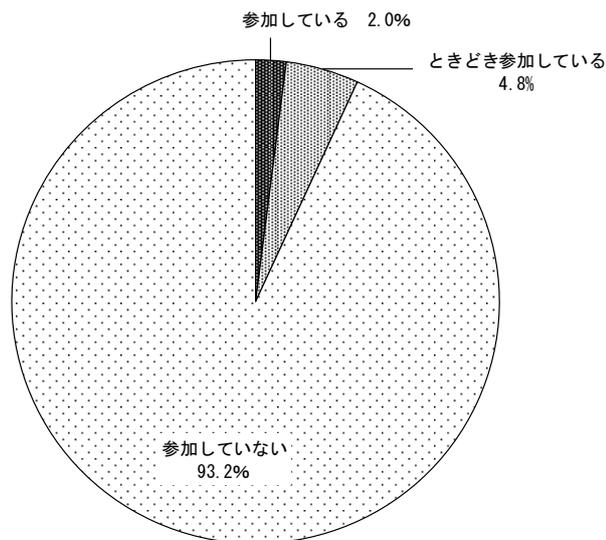
図表VI-6 「ラジオ体操の実施の認知度」(H28-27 年度)

調査年度	件数(人)	割合 (%)	
		①知っている	②知らない
28年度	570	43.5	56.5
27年度	700	32.9	67.1

4 ラジオ体操への参加について 【平成 27 年度新規設問】

ラジオ体操が行われていることについて「①知っている」を選択した回答者（248人）のうち、ラジオ体操に「参加している」（2.0%）、「ときどき参加している」（4.8%）を合わせると約7%となった。（「ラジオ体操が行われていることについて」の回答者 570人のうち約3.0%）

図表VI-7 「ラジオ体操への参加状況」(n=248)



図表VI-8 「ラジオ体操への参加状況」(H28-27年度)

調査年度	件数(人)	(%)			
		①参加している	②ときどき参加している	③参加していない	①+②
28年度	248	2.0	4.8	93.2	6.8
27年度	230	5.2	5.2	89.6	10.4

5 ラジオ体操に参加していない理由について 【平成 27 年度新規設問】

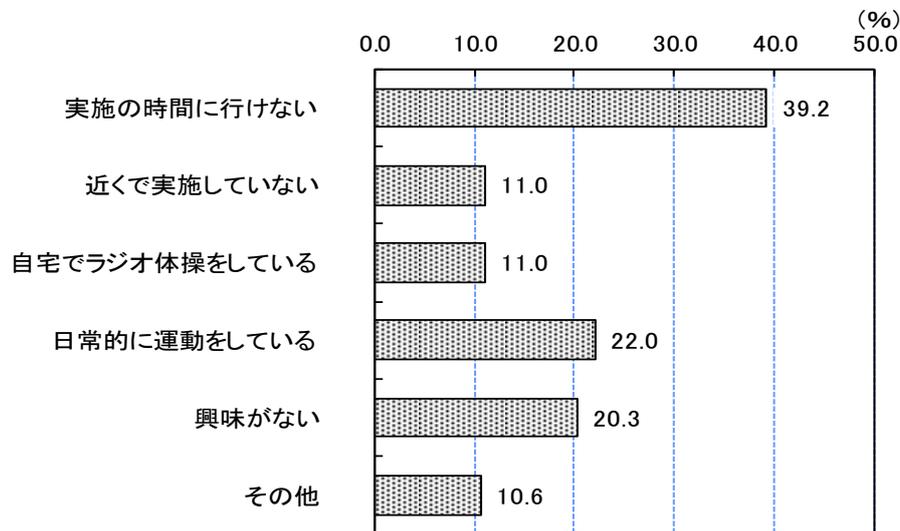
※ラジオ体操への参加について「③参加していない」を選択した回答者のみ

「実施の時間に行けない」が 39.2%と最も多く、参加の意向がないわけではないがラジオ体操が行われている時間に参加することが難しい状況がうかがえる。一方、「興味がない」回答者も約 20%となっている。

また、「日常的に運動をしている」(22.0%)、「自宅でラジオ体操をしている」(11.0%)回答者を合わせると 30%を超え、体を動かしている回答者も少なくない。

なお、「その他」として、年代が合わない、勤務先で実施している、体調理由などが挙げられている。

図表VI-9 「ラジオ体操に参加していない理由」(n=227)



※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は 100%にならない

図表VI-10 「ラジオ体操に参加していない理由」(H28-27 年度)

調査年度	件数(人)	理由						(%)
		①実施の時間に行けない	②近くで実施していない	③自宅でラジオ体操をしている	④日常的に運動をしている	⑤興味がない	⑥その他	
28年度	227	39.2	11.0	11.0	22.0	20.3	10.6	
27年度	199	32.7	8.0	8.5	19.6	22.6	19.1	

6 習慣的な運動の実施状況について

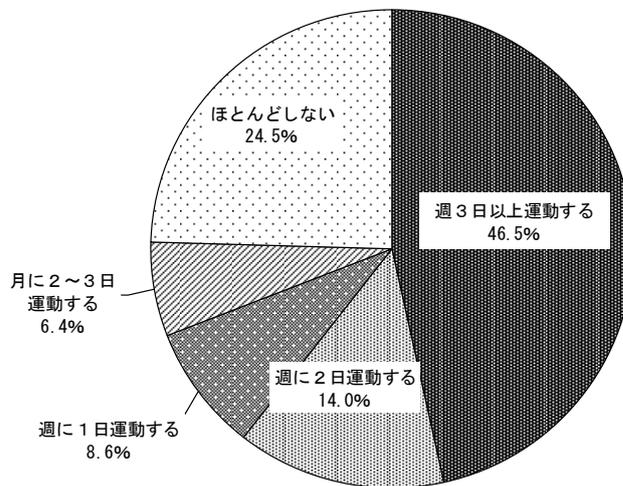
1日30分以上の運動を「週3日以上」している人(46.5%)が最も多い。また、週に1日以上運動している人(①～③)を合わせると、回答者の約7割に上る(69.1%)。

一方、1日30分以上の運動を「ほとんどしない」人も、24.5%と2番目に多い状況となっている。この回答傾向は前年度と同様である。

※30分以上の運動

- ・1日の合計で30分以上(例:10分を3回なども含む)
- ・運動にはウォーキングや自転車での走行等を含む

図表VI-11 「習慣的な運動の実施状況」(n=550)



図表VI-12 「習慣的な運動の実施状況」(H28-26年度)

調査年度	件数(人)						(%)
		①週3日以上	②週2日	③週1日	④月2～3日	⑤ほとんどしない	①+②+③
28年度	550	46.5	14.0	8.6	6.4	24.5	69.1
27年度	678	45.3	14.6	9.6	7.2	23.3	69.5
26年度	713	44.3	17.3	10.2	5.3	22.9	71.8

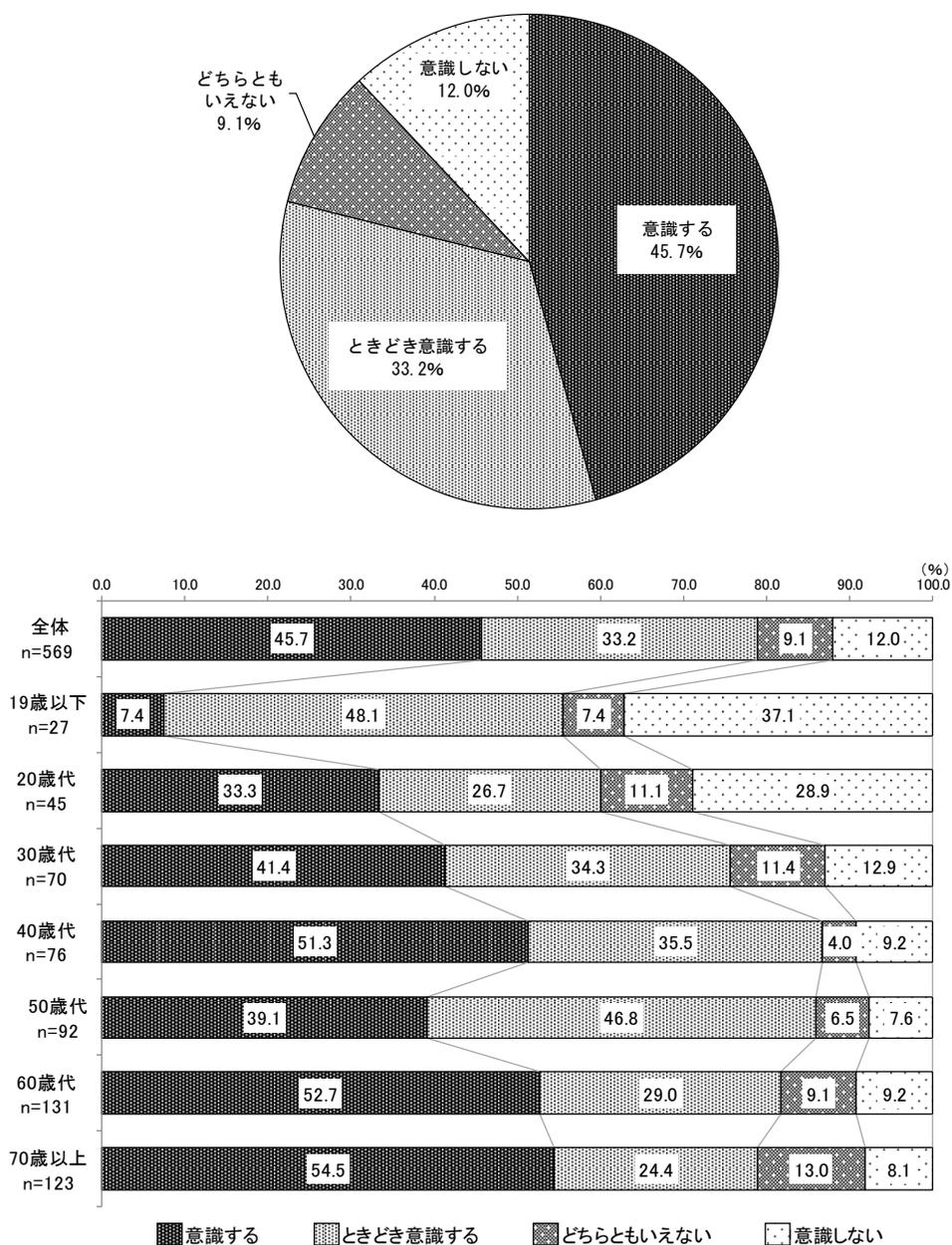
VII 地産地消について

地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指す中、地産地消に対する意識について尋ねた。

1 農水産物の産地に対する意識について

産地を「意識する」(45.7%)、「ときどき意識する」(33.2%)を合わせると、回答者の約8割に上り、意識の高さがうかがえる。この回答傾向は前年度と同様である。

図表VII-1 「農水産物の産地に対する意識」(n=569)



図表Ⅶ－２ 「農水産物の産地に対する意識」(H28-26年度)

調査年度	件数(人)					(%)
		①意識する	②ときどき意識する	③どちらともいえない	④意識しない	①+②
28年度	569	45.7	33.2	9.1	12.0	78.9
27年度	701	44.4	34.1	8.4	13.1	78.5
26年度	702	43.0	34.2	8.1	14.7	77.2

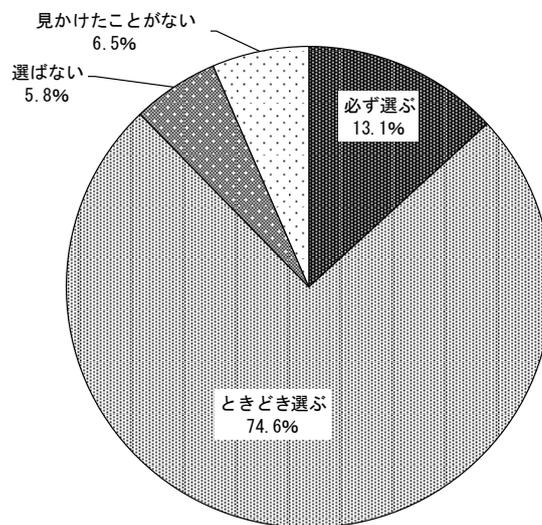
2 横須賀市産の農水産物の選択について

※農水産物の産地について「①意識する」「②ときどき意識する」を選択した回答者のみ

横須賀市産の農水産物を「必ず選ぶ」(13.1%)、「ときどき選ぶ」(74.6%)を合わせると、回答者の85%を超えている。(「農水産物の産地に対する意識について」の回答者569人の約70%)

一方、農水産物の産地を意識している人(本設問回答者)の中でも、横須賀市産の農水産物を「見かけたことがない」人も6.5%いる。

図表Ⅶ－３ 「横須賀市産の農水産物の選択」(n=449)



図表Ⅶ－４ 「横須賀市産の農水産物の選択」(H28-26年度)

調査年度	件数(人)					(%)
		①必ず選ぶ	②ときどき選ぶ	③選ばない	④見かけたことがない	①+②
28年度	449	13.1	74.6	5.8	6.5	87.7
27年度	548	12.8	75.0	6.0	6.2	87.8
26年度	540	10.2	76.5	5.2	8.1	86.7

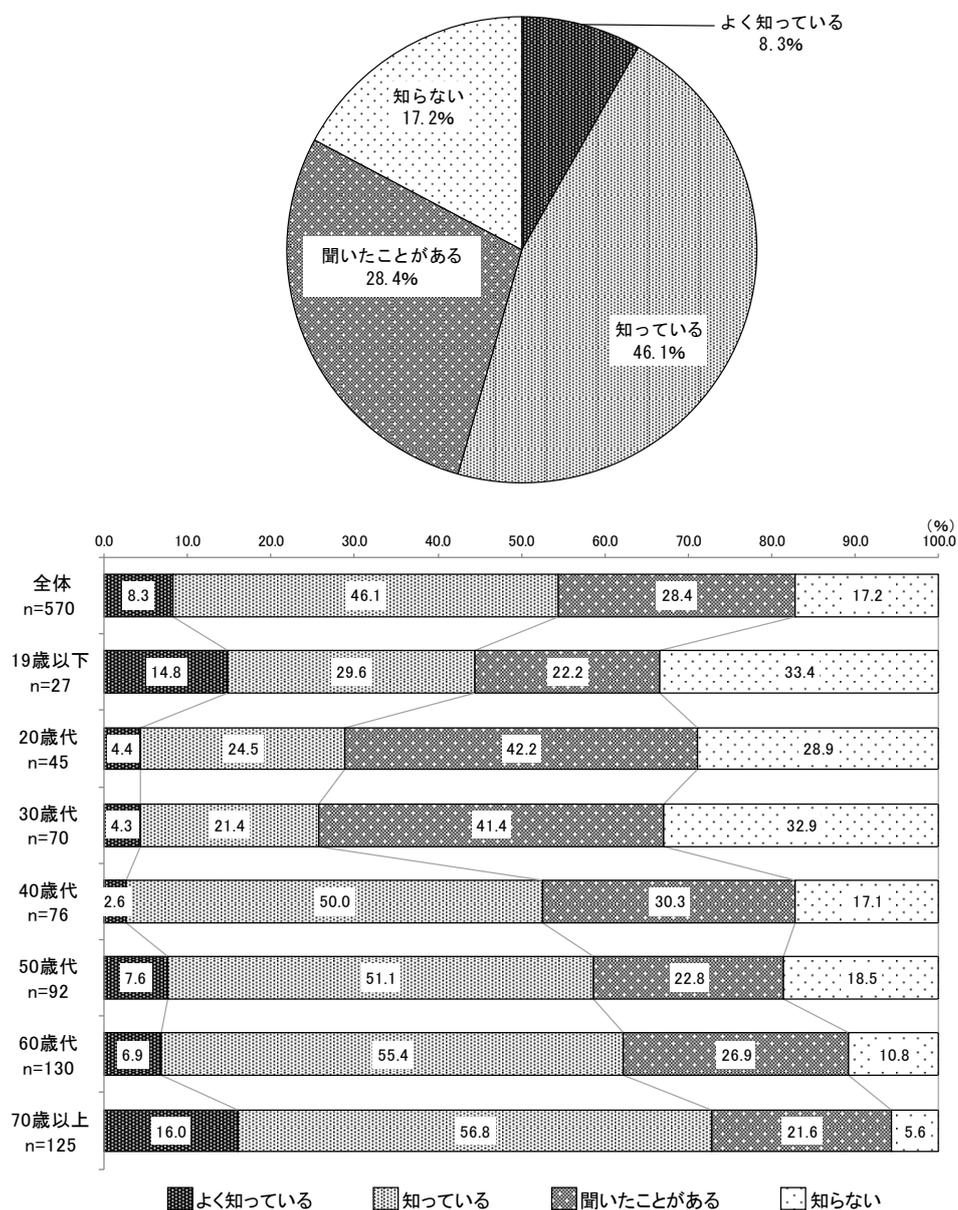
VIII 横須賀製鉄所（造船所）について

横須賀製鉄所（造船所）の開設 150 周年に関連し、横須賀製鉄所に対する認知度を把握するため、横須賀製鉄所やゆかりの人物などについてどの程度知っているかを尋ねた。

1 横須賀製鉄所の認知度について

横須賀製鉄所を「知っている」と回答した人が最も多く（46.1%）、「よく知っている」と回答した人と合わせると、全体の5割を超える結果となった。一方、17.2%の回答者が横須賀製鉄所を知らない状況である。

図表Ⅷ－1 「横須賀製鉄所の認知度」（n=570）



図表Ⅷ－２ 「横須賀製鉄所の認知度」(H28-26年度)

調査年度	件数(人)					(%)
		①よく知っている	②知っている	③聞いたことがある	④知らない	①+②
28年度	570	8.3	46.1	28.4	17.2	54.4
27年度	694	7.6	42.7	28.8	20.9	50.3
26年度	693	8.1	41.0	28.7	22.2	49.1

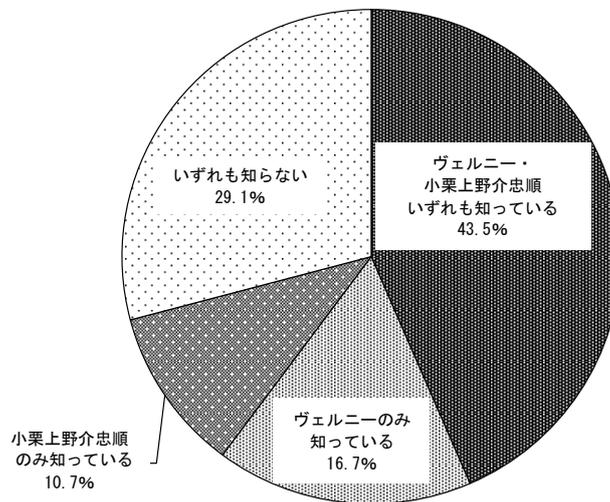
2 横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について

※横須賀製鉄所ゆかりの人物

- ・フランソワ・レオンス・ヴェルニー（横須賀製鉄所首長）
- ・小栗上野介忠順（横須賀製鉄所建設を推進した幕臣）

「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知っている」と回答した人が最も多い(43.5%)。一方、「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知らない」と回答した人も29.1%いる。なお、小栗上野介忠順よりヴェルニーの方が、認知度は高い結果となっている。

図表Ⅷ－３ 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(n=570)



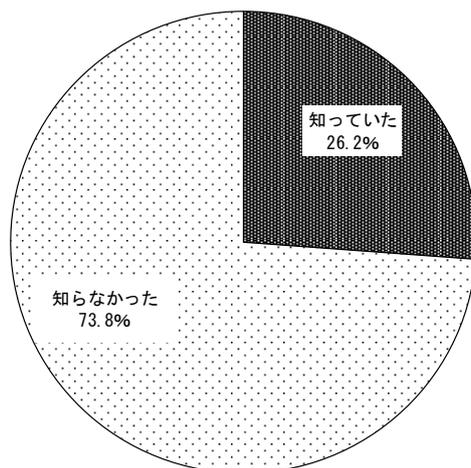
図表Ⅷ－４ 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(H28-26年度)

調査年度	件数(人)					(%)
		①ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知っている	②ヴェルニーのみ知っている	③小栗上野介忠順のみ知っている	④いずれも知らない	①+②+③
28年度	570	43.5	16.7	10.7	29.1	70.9
27年度	693	42.7	17.6	8.7	31.0	69.0
26年度	688	43.3	15.0	10.0	31.7	68.3

3 富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度について 【平成 27 年度新規設問】

世界遺産となった富岡製糸場（群馬県）が横須賀製鉄所をモデルに設計され、その技術が導入されていたことを「知っていた」と回答した人は 26.2%となった。

図表Ⅷ－5 「富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度」(n=573)



図表Ⅷ－6 「富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度」(H27-26 年度)

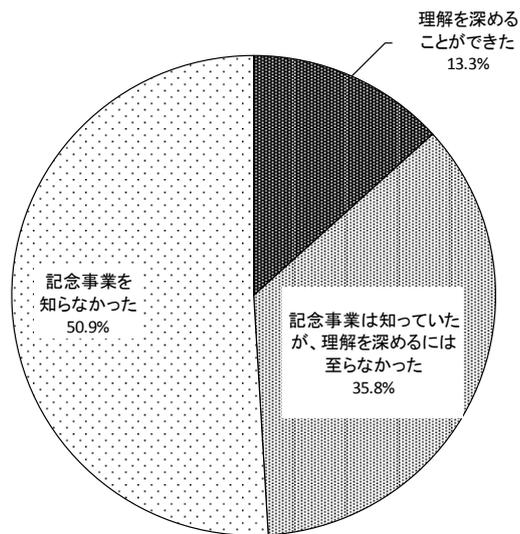
調査年度	件数(人)	割合 (%)	
		①知っていた	②知らなかった
28年度	573	26.2	73.8
27年度	703	25.3	74.7

4 150周年記念事業の実施による横須賀製鉄所への理解の深まりについて【新規設問】

平成27年度に実施した横須賀製鉄所創設150周年記念事業により、横須賀製鉄所への「理解を深めることができた」と回答した人は13.3%となった。

一方、回答者の約5割が「記念事業を知らなかった」を選択している。

図表Ⅷー7 「150周年記念事業による横須賀製鉄所への理解の深まり」(n=573)



基本的な属性(F1～F6)

(1) 性別 (F1)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	587	100	100	100		
男性	217	37.0	40.8	43.4	▲ 3.8	▲ 2.6
女性	352	59.9	57.1	55.1	2.8	2.0
無回答	18	3.1	2.1	1.5	1.0	0.6

(2) 年齢 (F2)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	587	100	100	100		
15～19歳	27	4.6	3.5	2.7	1.1	0.8
20～29歳	46	7.8	7.9	8.8	▲ 0.1	▲ 0.9
30～39歳	70	11.9	11.6	12.7	0.3	▲ 1.1
40～49歳	77	13.1	15.0	16.7	▲ 1.9	▲ 1.7
50～59歳	92	15.7	17.4	14.8	▲ 1.7	2.6
60～69歳	133	22.7	21.9	22.2	0.8	▲ 0.3
70歳以上	126	21.5	20.5	20.5	1.0	0.0
無回答	16	2.7	2.2	1.6	0.5	0.6

(3) 居住地域 (F3)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	587	100	100	100		
本庁地域	86	14.7	13.9	14.1	0.8	▲ 0.2
追浜地域	43	7.3	7.5	8.6	▲ 0.2	▲ 1.1
田浦地域	27	4.6	4.2	5.3	0.4	▲ 1.1
逸見地域	14	2.4	2.5	1.8	▲ 0.1	0.7
衣笠地域	84	14.3	13.6	14.0	0.7	▲ 0.4
大津地域	55	9.4	10.6	10.4	▲ 1.2	0.2
浦賀地域	78	13.3	10.6	11.5	2.7	▲ 0.9
久里浜地域	92	15.7	15.3	13.1	0.4	2.2
北下浦地域	36	6.1	9.6	8.3	▲ 3.5	1.3
西地域	53	9.0	10.0	10.9	▲ 1.0	▲ 0.9
無回答	19	3.2	2.1	1.9	1.1	0.2

(4) 職業 (F4)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	587	100	100	100		
農林漁業	0	0.0	0.3	0.4	▲ 0.3	▲ 0.1
自営(商店・工務店・工場等)	10	1.7	2.9	2.1	▲ 1.2	0.8
自営(サービス業)	14	2.4	2.4	2.5	0.0	▲ 0.1
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	104	17.7	17.0	14.4	0.7	2.6
会社員・公務員(販売/サービス)	28	4.7	7.8	8.2	▲ 3.1	▲ 0.4
会社員・公務員 (保安・運輸/通信・建設/労務)	21	3.6	4.3	5.1	▲ 0.7	▲ 0.8
自由業	1	0.2	0.8	0.8	▲ 0.6	0.0
家事専業	111	18.9	16.6	17.2	2.3	▲ 0.6
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	85	14.5	19.1	15.2	▲ 4.6	3.9
学生	31	5.3	4.7	4.0	0.6	0.7
無職	140	23.9	19.4	25.0	4.5	▲ 5.6
その他	28	4.7	2.5	3.6	2.2	▲ 1.1
無回答	14	2.4	2.2	1.6	0.2	0.6

(5) 世帯の状況 (F5)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	608	100	100	100		
単身世帯(一人暮らし)	98	16.1	16.0	15.4	0.1	0.6
夫婦のみ	190	31.3	27.6	29.9	3.7	▲ 2.3
小学生未満の子どもがいる	33	5.4	6.1	6.1	▲ 0.7	0.0
小学生～中学生の子どもがいる	56	9.2	9.4	10.2	▲ 0.2	▲ 0.8
65歳以上の高齢者がいる	98	16.1	17.0	17.1	▲ 0.9	▲ 0.1
該当なし	115	18.9	21.8	19.6	▲ 2.9	2.2
無回答	18	3.0	2.0	1.6	1.0	0.4

※複数回答

(6) 居住年数 (F6)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		28年度	27年度	26年度	28-27年度比	27-26年度比
全体	587	100	100	100		
1年未満	6	1.0	1.1	0.7	▲ 0.1	0.4
1～3年	29	5.0	4.2	4.0	0.8	0.2
4～9年	38	6.5	6.1	6.3	0.4	▲ 0.2
10～14年	34	5.8	6.3	6.2	▲ 0.5	0.1
15～19年	46	7.8	7.0	7.1	0.8	▲ 0.1
20～24年	46	7.8	7.8	8.1	0.0	▲ 0.3
25年以上	372	63.4	65.3	66.2	▲ 1.9	▲ 0.9
無回答	16	2.7	2.2	1.5	0.5	0.7

基本計画重点プログラム 市民アンケート

質問・回答用紙

-
- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
 - ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に封入し、**平成28年5月18日（水）**までにご投函ください。
 - ◇ 本調査結果は、市ホームページなどで公表しますが、「アンケート調査結果報告書」の送付を希望される場合は、返信用封筒の裏面に住所・氏名を記載してください。（封筒はアンケート集計には利用しません）
-

重点プログラム1 『新しい芽を育む』

～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

- 問1** 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
現在について選択肢1-(1)から、以前(4～5年前)との比較において
選択肢1-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢1-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢1-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問2** 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。

現在について選択肢2-(1)から、以前(4～5年前)との比較において
選択肢2-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢2-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢2-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

- 問3** 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。
現在について選択肢3 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において選択肢3 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢3 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢3 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問4** 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

現在について選択肢4 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において選択肢4 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢4 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢4 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

- 問5** 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。
現在について選択肢5 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において
選択肢5 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢5 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢5 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問6** 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。
現在について選択肢6 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において
選択肢6 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢6 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢6 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

問7 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。

現在について選択肢7 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において
選択肢7 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢7 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢7 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問8 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

現在について選択肢8 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において
選択肢8 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢8 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢8 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～

問9 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

現在について選択肢9 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において

選択肢9 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢9 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢9 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問10 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ※機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

現在について選択肢10 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において

選択肢10 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

※コミュニティ：同じ地域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり

《現在》

回答欄

理由

選択肢10 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢10 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

『持続可能な発展を遂げる都市力』について

今日、多くの自治体がそうであるように、横須賀市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面しています。

これまでの設問では、この厳しい状況下で着実に成長できるための土台づくり、また、全政策・施策の先導役として基本計画に位置付けた「5つの重点プログラム」に関して、皆さまの実感をお伺いしてきました。

問 11 重点プログラムに関する設問の最後にお伺いします。

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまちだと思いますか。

現在について選択肢 11 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において選択肢 11 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢 11 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢 11 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 12 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。次の選択肢から優先すべきと思う順に3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。

なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 人間性豊かな子どもの育成
- ③ 誰もが活躍できるまちづくり
- ④ 安全で安心なまちづくり
- ⑤ 人と自然が共生するまちづくり
- ⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
- ⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
- ⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
- ⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
- ⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
- ⑪ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番 目	2 番 目	3 番 目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
-------	-------	-------	--------------------------

『横須賀市の住み良さや定住意識』について

『横須賀市の住み良さや定住意識』についてお伺いします。

- 問 13** あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

回答欄

理由

選択肢

- ① 住み良い ② まあまあ住み良い ③ あまり住み良くない ④ 住みにくい
⑤ わからない

- 問 14** あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 今住んでいるところに住み続けたい ② 横須賀市内のどこかに住み続けたい
③ 市外に転居したい

※選択肢①②を選んだ方は、問 15 へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、10 ページの問 16 へ進んでください。

問 15 【問 14 で①または②を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよい
- ② 教育環境がよい
- ③ 福祉サービスが充実している
- ④ 治安がよい
- ⑤ 災害への心配がない
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されている
- ⑦ 自然環境が豊か
- ⑧ 市内の雇用状況がよい
- ⑨ 買い物しやすい
- ⑩ 通勤・通学に便利
- ⑪ 望ましい住宅が取得できる
- ⑫ 住民の雰囲気が良い
- ⑬ 親・親族が近くに住んでいる
- ⑭ その他

回答欄【問 14 で①または②を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

問 16 【問 14 で③を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよくない
- ② 教育環境がよくない
- ③ 福祉サービスが充実していない
- ④ 治安がよくない
- ⑤ 災害が心配
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されていない
- ⑦ 自然環境が豊かでない
- ⑧ 市内の雇用が少ない
- ⑨ 買い物に不便
- ⑩ 通勤・通学に不便
- ⑪ 望ましい住宅が取得できない
- ⑫ 住民の雰囲気がよくない
- ⑬ 親・親族の近くに住みたい
- ⑭ その他

回答欄【問 14 で③を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

あなたの健康づくりについて

少子高齢化が進む中、横須賀市では、市民の皆さまがいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指しています。自身の健康管理に関心を持つことや、健康の維持、増進、改善などの行動が広がるように環境を整えていきます。そこで、皆さまの健康づくりについてお伺いします。

問 17 あなたは、普段、自分は健康だと思いますか。
次の選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 健康だと思う ② まあまあ健康だと思う ③ あまり健康ではないと思う
④ 健康ではないと思う

問 18 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。【複数回答可】
なお、⑥その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

回答欄

	「⑥その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
--	--------------------------

選択肢

- ① 学校・勤務先での健康診断 ② 病院等医療機関での健康診断
③ 保健所健診センターでの健康診断 ④ かかりつけの病院・医院での診療
⑤ 把握していない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

問 19 市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操をしていることを知っていますか。（学校の夏休み期間中のみ実施されているものを除く）
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 知っている ② 知らない

※選択肢①を選んだ方は、問 20 へ進んでください。
選択肢②を選んだ方は、問 22 へ進んでください。

問 20 【問 19 で①を選んだ方に伺います。】

あなたは、そのラジオ体操に参加していますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 参加している ② ときどき参加している ③ 参加していない

※選択肢①②を選んだ方は、問 22 へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、問 21 へ進んでください。

問 21 【問 20 で③を選んだ方に伺います。】

それはなぜですか。
選択肢からあなたのお考えに近いものを選んで回答欄に記入してください。
【複数回答可】
なお、⑥その他を選んだ場合は、具体的な理由を記入してください。

回答欄

	「⑥その他」を選んだ方は、具体的な理由をお書き下さい
--	----------------------------

選択肢

- ① 実施の時間に行けない ② 近くで実施していない ③ 自宅でラジオ体操をしている
④ 日常的に運動をしている ⑤ 興味がない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

問 22 あなたは、30分以上※の運動（ウォーキングや自転車での走行等を含む）をどれくらいしていますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

※30分以上：1日の合計で30分以上（例：10分を3回なども含む）

回答欄

選択肢

- ① 週3日以上 ② 週2日 ③ 週1日 ④ 月2～3日 ⑤ ほとんどしない

地産地消について

横須賀市では、地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指しています。よこすかポートマーケット、すかなごっそをはじめとする「よこすか地産地消ショップ*」を、積極的にPRしています。

そこで、皆さまの地産地消に対する意識についてお伺いします。

*「よこすか地産地消ショップ」では、地場産農水産物を常に取り扱っています。200店以上の飲食店・販売店が登録しています。

問 23 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、農水産物（食材）の産地を意識しますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 意識する ② ときどき意識する ③ どちらともいえない ④ 意識しない

※選択肢①②を選んだ方は、問 24 へ進んでください。
選択肢③④を選んだ方は、問 25 へ進んでください。

問 24 【問 23 で①または②を選んだ方に伺います。】
あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、横須賀市産の農水産物（食材）を選びますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 必ず選ぶ ② ときどき選ぶ ③ 選ばない ④ 見かけたことがない

横須賀製鉄所（造船所）について

「横須賀製鉄所」（のちの造船所）は、江戸時代末期の1865年、江戸幕府の幕臣である小栗上野介忠順（おぐりこうずけのすけただまさ）らの進言により、フランスの技術者ヴェルニーを招いて建設されました。「横須賀製鉄所」で使用されていた国指定重要文化財「スチームハンマー」は、ヴェルニー記念館に展示されています。

世界遺産となった富岡製糸場（群馬県）は、「横須賀製鉄所」をモデルに設計され、製鉄所の技術が導入されています。また、当時のフランス人技師たちにより、メートル法、複式簿記などが日本で初めて製鉄所で用いられました。

このように「横須賀製鉄所」は、日本の近代工業技術の礎を築き、横須賀の都市としての発展の大きな推進力となりました。

そこで、横須賀製鉄所（造船所）についてお伺いします。

問 25 あなたは、横須賀製鉄所（造船所）について知っていますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① よく知っている ② 知っている ③ 聞いたことがある ④ 知らない

問 26 あなたは、横須賀製鉄所（造船所）にゆかりのある次のA、Bの人物について知っていますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

- A フランソワ・レオンス・ヴェルニー（横須賀製鉄所首長）
B 小栗上野介忠順（横須賀製鉄所建設を推進した幕臣）

回答欄

選択肢

- ① 2人とも知っている ② Aのみ知っている ③ Bのみ知っている
④ 2人とも知らない

問 27 あなたは、世界遺産となった富岡製糸場（群馬県）が横須賀製鉄所（造船所）をモデルに設計され、その技術が導入されていたことを知っていましたか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 知っていた ② 知らなかった

問 28 横須賀市では、昨年、横須賀製鉄所（造船所）創設 150 周年を記念して、ヴェルニー・小栗祭式典や海上自衛隊バンドフェスティバル、横須賀パレードなどの記念事業を実施しました。
あなたは、これらの記念事業により横須賀製鉄所（造船所）への理解が深まりましたか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 理解を深めることができた ② 記念事業は知っていたが、理解を深めるには至らなかった
③ 記念事業を知らなかった

あなた自身のことについてお伺いします

**※記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。
分析に必要なデータですので、全員の方がお答えください。**

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1 <性別>

- ① 男性 ② 女性

回答欄

F 2 <年齢>

- ① 15～19歳 ② 20～24歳 ③ 25～29歳 ④ 30～34歳
⑤ 35～39歳 ⑥ 40～44歳 ⑦ 45～49歳 ⑧ 50～54歳
⑨ 55～59歳 ⑩ 60～64歳 ⑪ 65～69歳 ⑫ 70～74歳
⑬ 75歳以上

回答欄

F 3 <お住まいの地域> (次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

- ① 本庁地域 ② 追浜地域 ③ 田浦地域 ④ 逸見地域
⑤ 衣笠地域 ⑥ 大津地域 ⑦ 浦賀地域 ⑧ 久里浜地域
⑨ 北下浦地域 ⑩ 西地域

回答欄

F 4 <職業>

- ① 農林漁業 ② 自営(商店・工務店・工場等)
③ 自営(サービス業) ④ 会社員・公務員(事務職・専門職・管理職)
⑤ 会社員・公務員(販売/サービス) ⑥ 会社員・公務員(保安・運輸/通信・建設/労務)
⑦ 自由業 ⑧ 家事専業
⑨ アルバイト・パートタイマー・派遣社員 ⑩ 学生
⑪ 無職 ⑫ その他

回答欄

F 5 <世帯の状況(同居)> (複数回答可 ※①を選択した場合は他の選択肢を選択できません)

- ① 単身世帯(一人暮らし) ② 夫婦のみの世帯
③ 世帯に小学生未満の子どもがいる ④ 世帯に小学生～中学生の子どもがいる
⑤ 世帯に65歳以上の高齢者がいる(ご自身を除く) ⑥ ①～⑤に該当なし

回答欄

F 6 <横須賀市に住んでいる年数>

- ① 1年未満 ② 1～3年 ③ 4～9年 ④ 10～14年
⑤ 15～19年 ⑥ 20～24年 ⑦ 25年以上

回答欄

ご協力ありがとうございました。

地域別一覧表

(町名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡ ①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡ ②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡ ③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡ ④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡ ⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡ ⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井	➡ ⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡ ⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡ ⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡ ⑩西地域

基本計画重点プログラム市民アンケート報告書

発行年月：平成28年（2016年）9月

編集・発行：横須賀市政策推進部政策推進課（都市政策研究所）

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

電話：046-822-8258 FAX：046-822-9285